

2025年度
第8回 清流環境作文コンクール
受賞作品集



一般財団法人 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイタイ病対策協議会

イラストレーション/金 斗鉦



受賞作品集

神通川清流環境賞

第8回清流環境作文コンクール部門受賞作品集発刊にあたり

一般財団法人 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会

代表理事 江添良作

富山県内の小学生を対象に実施してまいりました清流環境作文コンクールは早いもので本年度8回を迎え、小学校の教育現場や児童にもようやく認知され定着してきた感じがあります。

当協議会は、イタイイタイ病対策協議会と一体となってイタイイタイ病の風化防止や神通川の清流と豊かな大地を守るため、発生源の監視活動や復元田の整備事業などに取り組んでいます。

さて、同作文コンクールは当協議会が造成した「神通川清流環境基金」を活用して、富山県立イタイイタイ病資料館で学習したイタイイタイ病の歴史に学んだことや、自然環境において様々な体験をしたこと、科学的な実験を行ったことなど、幅広いテーマで小学校41校から1071人の応募がありました。

この中から慎重な審査を経て入選作品44点を絞り込み、作品集に掲載して県内すべての小学校及び図書館に配布させていただきます。審査に当たられました審査員の先生方に深く敬意を表します。

また、受賞されました児童の皆様ご家族の皆様にも、改めてお祝い申し上げますとともに、学級賞・学校賞を受賞されました小学校の先生各位には、心よりお礼と感謝を申し上げます。

後援をいただきました環境省、富山県教育委員会、富山県小学校長会、富山県教育研究会、富山県PTA連合会に対してもお礼申し上げます。更には今年度より同作文コンクールの趣旨に賛同するとして、三井金属株式会社より協賛していただけることとなりましたことをご報告いたします。

次年度以降も引き続き実施いたしますので、関係各位のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

審査講評

第8回清流環境作文コンクール審査委員長

元富山国際大学子ども育成学部教授 仲井文之

第8回清流環境作文コンクール受賞者の皆さん、受賞おめでとうございます。審査委員会を代表し講評をさせていただきます。

清流環境作文コンクールは、悲惨な歴史をもつイタイタイ病を後世に語り継ぎ、風化させてはならないことを願い、清流及び自然環境の尊さをテーマに今年度で第8回を迎えております。

今年度は応募期間を、令和7年7月1日から10月20日にかけて設定し、富山県内の小学校にご案内をさせていただきました。その結果、応募いただいた学校は41校、応募総数は1071点の素晴らしい作文を届けていただきました。

さて、この清流作文コンクールには、次の四つの部門が設けられています。

- (A) イタイタイ病に関する内容・・・・・・・・清流環境歴史賞
- (B) 自然・社会体験に関する内容・・・・・・・・清流環境体験賞
- (C) 持続可能な自然・社会への研究内容・・・・・・・・清流環境科学賞
- (D) がんばって応募してくれた学校・学級・・・・・・・・清流環境奨励賞

作品から、富山市を流れる神通川が汚染されて住民に重大な健康被害をもたらした歴史と、風化させてはならないという決意がみなさんに受け継がれていることが分かりました。また、暮らしの中での身近な生き物との触れ合いや、県内の海や川、山での体験を通して、自然への気づきがありました。私たちを取り巻く環境を知るには、科学的な視点と数値等の根拠が大切ですが、今回の作品には、明確な視点で環境を見つめた作品が寄せられていました。

今回の作文審査を通して、環境に関する授業が学校現場で取り組まれていることや、ご家庭で父母、祖母と交わされていることを心強く感じました。と同時に、私たちは富山の環境のために闘った先人と、受け継いだ市民の不断の努力を忘れてはならないと思います。

受賞作品は、「受賞作品集」として、県内の小学校に送付されます。環境教育や作文の学習に活用いただければ幸いです。

終わりになりますが、第8回支流作文コンクールに様々なご配慮をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

◆作文コンクール受賞者一覧

清流環境体験賞							清流環境歴史賞							賞名									
中学年部門		低学年部門					高学年部門			中学年部門			低学年部門	部門									
優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	賞								
川住 悠貴	中山 桃嘉	高島 千瑛	佐藤 倫久	坂本 宙輝	悟道 陽菜	伊藤 一葉	井上 結賀	明 大世	林 直矢	上島あかり	田中 晴斗	熊野 灯	山本 麻央	酒井 美緒	鍛冶 勇誠	水戸 椋太郎	菅野 真琴	石田 美月	中田 蒼人	土屋 琴波	辻内 莉帆	氏名	
富山市立宮野小学校	富山大学教育学部附属小学校	富山市立宮野小学校	富山市立速星小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立新庄北小学校	富山市立宮野小学校	射水市立新湊放生津小学校	富山市立鶴坂小学校	高岡市立福岡小学校	高岡市立牧野小学校	富山市立速星小学校	小矢部市立東部小学校	射水市立金山小学校	高岡市立高岡西部小学校	砺波市立砺波北部小学校	高岡市立高陵小学校	富山大学教育学部附属小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	小学校名
4年	4年	1年	1年	2年	1年	2年	2年	6年	6年	5年	5年	5年	6年	3年	4年	4年	4年	4年	2年	2年	1年	学年	
環境を守るピオトープ	幼いころの風景が教えてくれたこと	せいのりゅうとめだか	かわにごみをすてないで	カナヘビと友だち	きれいなみずをいつまでも	夏のゲレンデ	ずっときれいな海がつづきますように	イタイイタイ病	語りついでいく大切さ	苦しんだ人をむだにしないために	イタイイタイ病を忘れないで	イタイイタイ病のおそろしさ	わすれてはいけない痛み	イタイイタイ病を知って	よみがえった神通川のお米	生き物がすみよい未来を目指して	イタイイタイ病と水について考えたこと	語り部の大切さ	イタイイタイびょうのおいしゃさん	きれいな川を大せつに	じんづうがわとわたしのなつ		題名
54	52	50	48	46	44	42	40	36	34	32	30	28	26	24	22	20	18	16	14	12	10	ページ	

清流環境科学賞										清流環境体験賞											
高学年部門			中学年部門				低学年部門			高学年部門			中学年部門								
佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	優秀賞	優秀賞	優秀賞	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞		
長井 莉緒	塩谷 凧海	鍛冶咲彩子	柏原 優真	坂口由柚希	山口 恵生	廣崎 結望	金城美依那	加藤 咲	高島 紬	水野 源隆	藤澤 惇希	中西 琉菜	水戸 彩音	見浦 柊羽	濱野 弥祿	竹内 柚遥	北村 奏太	田子さくら	高林 佑衣	高畠 花帆	森安 秀唯
高岡市立戸出東部小学校	高岡市立牧野小学校	高岡市立高岡西部小学校	滑川市立田中小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	高岡市立高陵小学校	高岡市立高陵小学校	富山市立宮野小学校	富山市立杉原小学校	富山市立宮野小学校	富山市立八幡小学校	砺波市立砺波北部小学校	富山市立藤ノ木小学校	富山市立宮野小学校	射水市立小杉小学校	高岡市立牧野小学校	高岡市立高岡西部小学校	南砺市立利賀学舎	富山市立宮野小学校	射水市立大島小学校
6年	5年	6年	5年	4年	4年	4年	4年	4年	2年	1年	2年	2年	2年	5年	5年	6年	5年	6年	4年	4年	4年
生きるために水がある	漁業と河川の関係	千保川がきれいなのはなぜ？	ホタルと自然	ゴミ分べつと守りたい自然	ラミちゃんが食べるイシクラゲ	富山県の安全安心な水	富山のきれいな川を守りたい	水を大切に、そしてよごさないために	めだかのひみつ	かわとにんげんといきもの	まもりたい 海のたからもの	海に行ったら	耳をすませばきこえてくるよ	絶滅危惧種を守りたい	ハチの巣を調べて気づいたこと	富山わんの魚を食べ続けるには	初めて考えた食べ物のこと	きれいな千保川を守りたい	未来の頂上	総合の時間で出会ったカブトムシ	桂湖の自ぜんの中で感じたこと
100	98	96	94	92	90	88	86	84	82	80	78	76	74	70	68	66	64	62	60	58	56

◆応募学校一覧

滑川市	滑川市立田中小学校	
中新川郡	上市町立上市中央小学校	
富山市	富山市立八幡小学校	富山市立藤ノ木小学校
	富山市立堀川小学校	富山市立山室小学校
	富山市立新保小学校	富山市立船嶺小学校
	富山市立鵜坂小学校	富山市立朝日小学校
	富山市立神保小学校	富山市立杉原小学校
	富山市立芝園小学校	富山大学教育学部附属小学校
		富山市立新庄北小学校
		富山市立蜷川小学校
		富山市立速星小学校
		富山市立宮野小学校
	富山市立神明小学校	
射水市	射水市立新湊放生津小学校	射水市立小杉小学校
	射水市立中太閣山小学校	射水市立大門小学校
	射水市立大島小学校	学校法人片山学園初等科
		射水市立金山小学校
高岡市	高岡市立福岡小学校	高岡市立高岡西部小学校
	高岡市立能町小学校	高岡市立高陵小学校
	高岡市立戸出東部小学校	高岡市立戸出西部小学校
		高岡市立木津小学校
氷見市	氷見市立朝日丘小学校	
		氷見市立宮田小学校
小矢部市	小矢部市立東部小学校	
砺波市	砺波市立出町小学校	
		砺波市立砺波北部小学校
南砺市	南砺市立利賀学舎	

◆審査員一覧

仲井 文之 元富山国際大学子ども育成学部教授
水上 義行 元富山国際大学子ども育成学部教授
三原 茂 富山国際大学子ども育成学部教授
岩崎 直哉 富山国際大学子ども育成学部講師
宮城 信 富山大学教育学部准教授
鈴木 敬子 元射水市立作道小学校長
牧野 宇子 元富山市立四方小学校長
城岸 毅 元南砺市立井波中学校長
城岡 恭子 元射水市立太閤山小学校校長

◆後援団体一覧

環境省 富山県教育委員会 富山県小学校校長会 富山県小学校教育研究会 富山県PTA連合会

◆協賛

三井金属株式会社



清流環境歷史賞

低学年部門

優秀賞

じんづうがわとわたしのなつ

富山市立宮野小学校 一年

辻内^{つじうち}
莉帆^{りほ}

わたしのがっこうのこうかは、「じんづうがわはき
よらかに」で、はじまります。わたしは、このうたが
すきです。うたうと、じんづうがわの、きれいななが
れが、めにうかびます。

わたしは、まいとしなつになると、かぞくといっ

しよに、じんづうがわに、はなびをみにいきます。ぴ
んくや、あおや、きいろのはなびがあがると、「す
ごい!」と、おもわずこえがでてしまいます。この
はなびは、むかしのせんそうで、なくなったひとたち
をおもい、へいわをいのるために、うちあげていると、
ほいくえんのときに、せんせいがおしえてくれました
た。はなびをみるとき、みんながげんきで、へいわ
にくらせますようにと、こころのなかで、おねがいし
ました。

がっこうのとしよしつには、イタイイタイびょうの、
ほんのコーナーがあります。そこにあつたほんをひら
くと、びょうきでねこんでいるひとの、しゃしんが
のつていました。とてもくるしそうで、おそろしい
びょうきだということが、つたわってきました。その
ことを、おかあさんにはなすと、むかしこのちいきで、
「イタイイタイびょう」というびょうきが、あつたこ

とをおしえてくれました。

じんづうがわが、よごれていて、それがびょうきのげんいんだったそうです。かわがよごれていたら、びょうきになったり、いきものがしんでしまったりすると、かなしいきもちになりました。でもいまは、じんづうがわは、とてもきれいです。みずは、すきとおっていて、さかなつりをしているひとも、たくさんいます。かわをきれいにしてくれたひとたちに、ありがとうございます。

わたしは、これからもじんづうがわを、たいせつにしようとおもいます。かわにごみをすてないようにしたり、ちいきのせいそうかつどうに、さんかしたりしたいです。

らいねんも、かぞくといっしょに、じんづうがわではなびをみたいです。そして、へいわなまいにちと、きよらかなじんづうがわが、ずっとつづいてほしい

です。



低学年部門

優秀賞

きれいな川を大せつに

富山市立宮野小学校 二年

土屋 つちや
琴波 こなみ

わたしは、まい日、家や学校で、おいしいごはんを食べ、水をのんでいます。ところが、今から七十年くらい前に、わたしのすんでいる町には、「イタイイタイびょう」という、おそろしいびょう気がありました。わたしは、イタイイタイびょうについてしらべました。

イタイイタイびょうは、はじめは、こし、ひざ、かたがいたくなります。そのうち、体じゅうがいたくなり、ほねがおれやすくなります。せきをしただけでも、ほねがおれることもあります。いきをすうだけで、はり千本くらいで、さされるような、いたみがあるそうです。

わたしは、くすりをのめば、治ると思っていました。ところが、そのときは、くすりどころか、なぜ、こんなびょう気になるのか、まったくわからなかったそうです。そして、「いたい、いたい。」と、言いながら、しんでいくしかありませんでした。

わたしは、とてもこわいと思ったし、かかった人たちが、かわいそうだと思いました。びょう気のげん人は、じんずう川の上りゅうの、工場からながれ出した、「カドミウム」という、どくの金ぞくでした。むかしは、川の水をくんで、りょうりをしたり、川から

ひいた水で、田んぼをしたりしていました。おいしく食べていた、ごはんのせいで、少しずつ体に、カドミウムがたまっていたそうです。

カドミウムをながさないようにしたり、地いきの土をよくしたりと、いろんな人がど力しました。そして今では、あんぜんにこの土地にすむことが、できるようになりました。

カドミウムは、目には見えないので、とてもおそろしいなど、思いました。しかし、むかしの人のど力のおかげで、まい日おいしいごはんを食べて、元気にすごせることに、かんしゃしたいと思います。

これからも、きれいな川や土地を大せつに。



低学年部門

佳作

イタイイタイびょうの おいしやさん

富山市立宮野小学校 二年

中田 蒼人
なかだ あおと

ぼくは、一年生のときに、はじめてイタイイタイ
びょうについて知りました。むかし、ぼくがすむちい
きではカドミウムという、体にわるいものが、じん通
川にながされて、よごれた水でそだったおこめや、や

さいを食べたたくさんの人たちが、体のほねがもろく
なって、すぐにおれてしまうびょう気になってしま
いました。

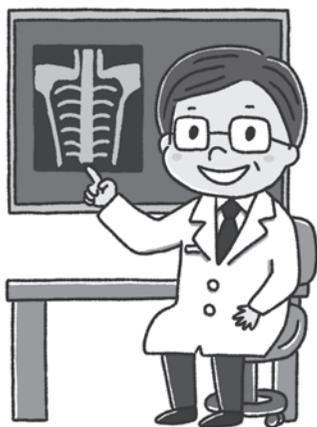
ぼくは、一年生のあきにびょう気になり、入いんし
て手じゅつをしました。手じゅつの後は、とてもいた
くて、しゃべることも、ごはんを食べることもできな
くなって、ずっと点てきをしていました。でも、手じゅ
つをしてくれたおいしやさんが、ぼくのびょう気をな
おしてくれました。イタイイタイびょうになった人た
ちも、おいしやさんになおしてもらえばよかったのに
と思い、お母さんに聞いてみました。

そうしたら、お母さんは、はぎののぼる先生という、
一人のおいしやさんの話をしてくれました。はぎの
先生は、ほねにくわしいおいしやさんです。イタイ
イタイびょうが、どんなびょう気なのか、日本中のだ
れも分からないときから、いたくてくるしんでいる人

を、たすけたいという気もちで、すごくがんばったお
いしゃさんだそうです。イタイイタイびょうのげんい
んを見つげるためのけんきゅうをして、まわりの人た
ちからいやなことを言われても、ぜったいにあきらめ
ないで、何年もど力しつづけた人だと知りました。

ぼくは、イタイイタイびょうをなおすために、がん
ばった、はぎの先生の話聞いて、くるしんでいる人
をたすけるおいしゃさんは、すごいと思いました。

ぼくもはぎの先生のように、あきらめない気もちを
もって、何でもど力して、いろんなことに、ちょうせ
んしたいと思います。



* 中学年部門 *

最優秀賞

語り部の大切さ

富山大学教育学部附属小学校 四年

石田^{いしだ} 美月^{みづき}

去年、初めてイタイイタイ病のことを知って、公害の恐ろしさや、汚れた川の水で生活している世界の貧しい国のことなどを知りました。私も忘れないようにするために、常に関心を持つようにしていました。

イタイイタイ病とは、工場から流れたカドミウムと

いう物質が、川の水で生活していた人たちの、腎臓の障害を引き起こし、骨がもろくなったり、骨の中がスカスカになったりして、せきをただけでも骨折するようになる病気です。さらに、患者さんの家族も偏見で苦しむので、とても恐ろしい病気だと思いました。そんなことが数十年前に起こっていると思うと、今も世界のどこかで同じことが起こりそうで、少し怖いです。富山県では、神通川を再び汚すことがないように、毎年、調査を続けているそうで、少し安心しました。

先日、たまたま通りかかったコンビニで、「イタイイタイ病」という言葉が目飛びこみ、見てみると、唯一、存命していたイタイイタイ病の認定患者のキミ子さんの話を書いてある新聞だったので、すぐに購入し読んでみました。

キミ子さんは、昨年八月に亡くなられていて、イタイイタイ病のことを家族に話しても、相手にされな

かったそうです。それでも、痛みに苦しみながらも、絵を描いたり折り紙をしたりと、けん命に人生を楽しもうとしていたと知り、心が強い人だと思いました。しかし、骨の痛みは消えず、夜は、激痛で二時間ごとに目が覚めるときがあったそうです。

また、当時治りようにかかったお金などのほしゅうを受けることができる「認定患者」となるには、摂取に痛みを伴う「骨生検こつせいけん」が必要で、キミ子さんは、「痛いなら嫌や。認められんでもいいっちゃ。」とまで言い、認定をあきらかけていました。しかし、今年語り部となった族の思いのおかげで、認定患者となったそうです。

キミ子さんの死で、存命の認定患者がゼロとなり、イタイイタイ病の苦痛を実際に経験した人がいなくなりました。公害病の恐ろしさを知らない人が、また、有害な不要物を川などに流して、イタイイタイ病のと

きと同じことが起こるのがとても恐ろしいです。語り部をしている人がイタイイタイ病を知るきっかけになって、公害病への意識が高まるといいなと思いました。

これからも、イタイイタイ病のことを忘れずに、生きていきたいと思えます。



* 中学年部門 *

優秀賞

イタイイタイ病と 水について考えたこと

高岡市立高陵小学校 四年

菅野 すがの 真琴 まこと

学校の授業で、富山県神通川流域で多発した水質汚染による公害のひとつである、イタイイタイ病について知りました。ちょうど、浄水場についても学んだばかりで、川やダムなどから取水し、処理されて、安全

な水ができるはずなのに、なぜ、そんなにも大きな公害になったのだろうと、不思議でした。そこで、イタイイタイ病資料館に行つて、その原因や歴史について調べてみました。

まず、イタイイタイ病の原因が発生したのが百年以上前で、当時はまだ水道が普及していないために、川の水をそのまま、すい事や洗たく、飲み水にも利用していたそうです。また、お米を作ったり、川魚をとって食べたりと、今も昔も、神通川と深く関わって生活してきたそうです。僕は、普段の生活で、川の水をそのまま使うことがないので、なかなか実感はわかなかつたけれど、大好きなお米の水田に用水が流れ込んでいるのを思い出し、川の水質が僕たちの体に、直接大きな影響を与えるということに気が付きました。

また、日本のように、じゃ口をひねれば飲むことができる安全な水が出る国は、世界で十二か国くらいし

かない、と母から教わり、その少なさにびっくりしました。

川の水を汚してはいけないことはもちろんだけでなく、もし水道の普及がもっと早かったら、イタイイタイ病は、ここまで大規模にならなかったかもしれないと考えました。このようにめぐまれた水環境で生活できることが、当たり前ではないということを忘れてはいけないと思いました。

長い年月をかけて、カドミウム汚染の発生源に対する対策、汚染された水田の土壌を元にもどすための対策などが行われたおかげで、神通川はよみがえって、今はとてもきれいです。でも、百年以上前の出来事なのに、今も苦しんでいる人がいることにとても驚き、悲しいことだと思いました。

一度汚れた環境を元にもどすには、長い年月とたくさんの人たちの努力と、多くのお金が必要です。今あ

る美しい富山県の川を守っていかねばならないと思います。今も、世界各地で環境汚染問題は起きています。イタイイタイ病のような過ちが繰り返されないように、未来のために改善してほしいと思います。



* 中学年部門 *

優秀賞

生き物がすみよい未来を目指して

砺波市立砺波北部小学校 四年

水戸 みと 椋太郎 りょうたろう

「おじいちゃん、これは何？」

夏休みに、おじいちゃんの家に行ったとき、な屋で古いつりざおを見つけた。

「このつりざおは、昔使っていた物だよ。昔は、家の近くの用水路で魚がつかれたからね。今は魚がない

んじゃないかな。」

と、おじいちゃんは言った。

「その用水路を見に行ってみいな。」

ぼくは、おじいちゃんにおねがいをして、その場所につれて行ってもらった。

歩いて用水路にむかうとき、おじいちゃんに昔の話聞いた。その用水路には、フナやドジョウがいて、子どもたちはつりをして遊んでいたそう。そして、夜になると、用水路のまわりには、ホテルがいっぱい飛んでいて、きれいだったそう。しかし、その用水路にとう着してみると、ほとんど水がないじょうたいだった。そして、ペットボトルやおかしのふくろなどのゴミも落ちていた。

「昔と全ぜんちがう景色になってしまったな。」

と、おじいちゃんは言った。おじいちゃんは、さみしいような、悲しいような顔をしていた。おじいちゃん

の顔を見て、ぼくも悲しい気持ちになった。そして、この用水路にたくさんのお魚やホタルがいたなんて信じられないなと思った。このじょうたいが近づけば、この用水路だけでなく、他の川や海でも生き物がいきいていけないじょうたいになるのではないかと、こわくになった。この先の未来にきれいな川や用水路をのこしていくために、自分たちに、何ができるのか考えなければいけないと思った。

毎年、家族で参加している地いきの清そう活動に、今後もせっきよくてきに参加することが大切だと思う。そして、生活に使うはい水にも気をつけて、よごれた水や油は決して流さないことを守りたい。また、道にゴミがおちていたら、すすんで拾えるような人になりたい。そして、まわりの人ともかんきょうについて、もう一度話し合い、多くの人がかんきょうについて考えるような社会になってほしい。

ぼくたちのど力のつみかさねで、少しずつでも、きれいな川や海がふえていきますように。



* 中学年部門 *

佳作

よみがえった神通川のお米

高岡市立高岡西部小学校 四年

鍛治かじ 勇誠ゆうせい

「あっ、今日のごはん、おいしい。」

「今日のお米は、神通川の近くでとれたお米だよ。」

お母さんの声を聞いて、ぼくはドキドキしました。

なぜなら、イタイイタイ病が発生した神通川の近くでとれたお米を食べても安全なのか、不安に感じたから

です。

ぼくは、学校の校外学習で、イタイイタイ病し料館に行くことになっていたので、し料館の人にいろいろ聞いてみようと思いました。イタイイタイ病し料館の人に、イタイイタイ病にかかった人の骨はどのような感じになるのか聞いてみました。すると、イタイイタイ病にかかった人の骨をさいげんしたものを持たせてくれました。持ってみると、とても軽いし、骨がうすいような感じがしました。骨が何本も折れた人は、たおれて気ぜつしていたそうです。ぼくは、それを聞いて、心がとても苦しくなりました。工場から川に流れたカドミウムは、農業用水によって水田に運ばれ、土のようにちく積されます。カドミウムに汚染されたお米を食べた人たちが、イタイイタイ病にかかったことを話してくれました。イタイイタイ病のかん者は、農業をしている人が多かったそうです。お米や水は、生

きていくために必要なものなのに、それが汚染されてしまうと、とてもつらかったのだらうと思いました。またお米を作ることができるよう、農地の復元工事をしたそうです。その方法とは、汚染された土の上に新しい土をのせる方法でした。二百十八万立方メートルの土を使い、これは東京ドーム約二・二こ分の量です。その広大な土地の復元は、全国的にも例のない工事で、お金も時間もかかったけれど、復元を終えてきれいな水と土にもどり、農地もお米を作れるようになりました。

ぼくは、こんなにたくさん量の新しい土を用意するのも大変だし、おいしいお米を作ることができるようにすることは、とても苦ろうしたと思いました。一度カドミウムのようなどくが川に流れてしまうと、元にもどすことはむずかしいので、イタイイタイ病のような病気が、また発生しないようにしなければなら

いと思いました。そのために、これからは川のごみ拾いや川にごみを流さないようにしたり、自分ができることを何でもしたりしようと思いました。

みんなにもイタイイタイ病のこわさと、神通川の近くでとれたお米は、安全でおいしいということを知らせて、きれいな川を守っていききたいと思いました。



* 中学年部門 *

佳作

イタイイタイ病を知って

射水市立金山小学校 三年

酒井 美緒
さかい みお

わたしは、清流環境作文コンクールがきっかけで、イタイイタイ病について調べてみることにしました。名前しか知らなくて、家ぞくのみんなに話を聞くうちに、もっと知りたくなり、イタイイタイ病しりょう館へ行きました。

イタイイタイ病は、ぎふ県から富山県をながれる神通川で、大正時代ごろから発生した公がい病です。どうしてこの病気にかかったかというと、婦中町に流れている神通川の上流にある、神おかこう山から捨てられた水に、カドミウムという毒が入っていて、それが、神通川に流れ、その下流にある田んぼや畑にその毒がたまったからです。そして、カドミウムをふくんだ水は田んぼや畑で使われたり、料理に使われたりして、米や野さいを食べたりした人が病気になりました。

カドミウムは毒が強く、体の中にたまることで体中がいたくなります。病気が進むと、ほねがへん形したり、くしゃみをするだけでほねが折れたりする病気で、かん者さんは、「いたい、いたい」と泣きさげぶことから、「イタイイタイ病」という名前がつけられました。

カドミウムによって、毎日が苦しくてつらくて、い

たい思いをしてすごしてきたのかと思うと、とても悲しい気持ちでいっぱいになりました。なくなった人もたくさんいます。

今、わたしたちがきれいな水をのむことができ、おいしいごはんを食べることができるのは、イタイイタイ病が、二度とおこらないようにねがう人たちのおかげだと思いました。

人は、きれいな水がないと、けんこうに生きていくことができません。動物や魚、米や野さいも同じだと思います。水がとても大切だということを知りました。そして、二度と川の水をよごすのはいけないことだと思いました。

イタイイタイ病を知って、わたしにできることから始めてみようと思いました。たとえば、ごみのポイ捨てをしないこと、ごみをきまった場所へ捨て、まだ使える物は大事に使って、ごみをへらすことなどに気

をつけたり、水をむだ使いせずに大切にしたりしたいと思いました。

たくさんの人にイタイイタイ病のことをもっと知ってほしいし、同じ気持ちになれるといいなと思いました。



* 高学年部門 *

最優秀賞

わすれてはいけない痛み

小矢部市立東部小学校 六年

山本 やまもと
麻央 まお

「イタイ、イタイ」

この言葉には、想像以上の苦しみがこめられていました。音がくり返されるので冗談のように聞こえるかもしれません。でもそれは、笑いごとではなく、本当に体も心も苦しめられた人たちの「痛み」のつらさと、

家族のさけびも重なっていたのだと思います。

私の住む富山県では、かつて「イタイイタイ病」とよばれる公害病が発生しました。神通川の近くに住む人たちが、骨がもろくなり、体中がひどく痛む病気にかかりました。歩くことも立つこともできず、寝ていても、「イタイ、イタイ」と声を出さずにはいられない苦しい病気でした。

この病気の原因は、工場から川に流されたカドミウムという有害物質でした。川の水で育ったお米や野菜を食べることで、少しずつ体の中にたまっていったのです。知らないうちに体がこわれていくと知って、私はとてもこわくなりました。普通に暮らしていただけなのに、本当におそろしく感じました。

現在、「イタイイタイ病は昔のこと」と思う人もいられるかも知れません。でも、この問題は過去の話ではありません。私たちが忘れてしまえば、また同じことが

くり返されるかもしれません。そんなことは絶対にあつてはいけないと思います。

私はもっと知りたいと思い、イタイイタイ病資料館の講座に参加しました。そこでは、初めて知ることがたくさんありました。患者の骨と健康な人の骨のサンプルを持ってみると、患者の骨は明らかに軽く、中空っぽのようにスカスカで、手に取った瞬間、驚きと怖さで胸がいっぱいになりました。当時の神通川流域の人たちは水が白くにごっていても、生活に使い続けていたことも知りました。患者の多くは子供を産んだことがある女性で、大事なお母さんが動けなくなり、家のことが何もできなくなるのは、とても大変だったでしょう。病気に苦しむ女性たちの姿は信じられないもので、自分に置きかえて想像したくない状況でした。

当時、病気に苦しんだ人たちは、「日頃の行いが悪い」「呪いだ」と言われ、病気だけでなく、差別や偏

見にも苦しみました。でも、その中で声を上げ、問題と立ち向かった人たちがいました。その勇気や努力は、今の私たちも学ぶべき大切なことだと思っています。

イタイイタイ病は、私たちが自然や生活との向き合い方を考えるための教えです。患者に寄り添い、二度と同じことをくり返させないように行動した人の思いを、未来へつないでいくことが大切だと思います。そのためにもまず必要なのは、「知ること」です。知った人は、まだ知らない人に伝えることが必要です。

富山に生きる一人として、私はこの「痛み」を心なきざみ、未来へつなげていきたいです。もし自分が同じ立場だったらどうしただろうかと考えることで自然や健康を守る気持ちが強くなります。私たちの行動が未来を変えるのだと思います。

* 高学年部門 *

優秀賞

イタイイタイ病のおそろしさ

富山市立速星小学校 五年

熊野くまの 灯らいと

ぼくは社会の授業で、「イタイイタイ病」という公害病を学びました。名前を聞いたときは「どうしてそんな名前なのだろう」と思いました。でも調べていくと、その名のとおり体じゅうが、「いたい、いたい」とさげばずにはいられないほど苦しい病気だと知り、

こわくてむねがしめつけられるような気持ちになりました。

さらにぼくは、実際に夏休みに神岡鉾山の前を車で通ったとき、「ここから流れ出した排水が人の体を苦しめたのか」と思うと、体がふるえるようでした。昔、ここで働いていた人々の声が岩の中から聞こえてくるように思えました。

この病気は、鉾山から出た排水にふくまれていたカドミウムという毒が原因でした。その毒が川や田んぼをよごし、そこで育ったお米や野菜を食べた人の体に少しずつたまっていったのです。やがて骨がおれ、歩けなくなったり、寝たきりになったりしました。「いたい、いたい」と泣きながら一日一日を過ごさなければならなかった人たちの苦しみを思うと、涙が出そうになりました。

それでも病気になった人たちは、ただ泣いて終わる

ことはしませんでした。「自分たちのように苦しむ人を二度と出してはいけない」と勇気をふりしぼり、声をあげました。病気で体はボロボロになっていたはずなのに、それでも未来のために立ち上がったのです。

長い時間をかけてたたかいた、やっと「神岡鉦山の排水が原因だ」と証明されました。その結果、国や会社に対策を求めることができ、今のように環境を守るルールが作られたのです。

もし、その人たちがあきらめてしまっていたら、ぼくたちの未来はどうなっていたのでしょうか。きっと同じように苦しむ人がまた出ていたと思います。そう考えると、今ぼくたちが健康で安心してくらしているのは、苦しみの中で声をあげてくれた人たちのおかげなのだと思つぎ、感謝の気持ちでむねがいっぱいになりました。

神岡鉦山の前を通った体験は、ぼくの心に深く残り

ました。イタイイタイ病は、ただ「おそろしい病気」ではなく、命をかけて未来を守ってくれた人々がいたことを、忘れてはいけない出来事なのだと思つ感じたからです。

これからぼくは、水や電気をむだにしないこと、ごみをへらすことなど、小さなことからでも環境を守る行動をしたいと思つきます。そして、大人になったときは子どもたちにこう伝えたいです。「今、わたしたちが安心してくらせるのは、神岡鉦山の公害とたたかいた人たちのおかげなんだよ。そして、未来を守るのはいくらからのぼくたちなんだよ」と。

* 高学年部門 *

優秀賞

イタイイタイ病を忘れないで

高岡市立牧野小学校 五年

田中 晴斗
たなか はると

ぼくは、イタイイタイ病のことを学校で学び、もっと知りたいと思ったので、家族と一緒にイタイイタイ病資料館に行ってきました。

資料館に入ると、まず昔の人の暮らしを再現したジオラマがありました。昔から神通川では、豊かな自然

を生かした農業や漁業が発達していました。昭和三十年代より前は、水道が各家庭に引かれていなかったの
で、神通川の水を引いた農業用水から家の台所まで水
を引き込み、その水で野菜を洗ったりご飯を炊いたり、
生活の水として使うのが普通のことでした。しかし、
明治の終わりごろから神通川の水が白くにごったり、
稲の育ちが悪くなったりすることがふえてきました。
これは神通川周辺だけに起こりました。これが、イタ
イイタイ病の原因となった鉱毒、カドミウムであると
は知らず、生活用水として使われ続けました。

イタイイタイ病に一度罹ると治りません。病気が進
むと、病院で聴診器を背中にあてられただけで、骨が
ぼきぼきと折れるほど骨がもろくなってしまいます。
ぼくはそれを聞いて、病気がかかった人はさぞかし痛
く苦しかっただろうと思いました。

健康被害を受けた住民が、神岡鉱山を経営していた

三井金属鉱業に対して裁判を起こし、イタイイタイ病の原因は、神岡鉱山から出たカドミウムが原因だったと発表されました。

二度とイタイイタイ病を起こさないために、裁判が終わった年から毎年、調査が行なわれています。カドミウムでふたたび神通川を汚すことがないようにすることが目的です。そのおかげで、現在の神通川での水質調査では、カドミウムは国の決めた基準を大きく下回って、安全を取り戻しています。

また汚れた農地も、もう一度米づくりができるように復元工事が行われ、平成二十四年に工事が終了し、この土地で作られた米のカドミウム濃度は、国の決めた基準を大きく下回り、安全な大地を取り戻しています。

ぼくは、カドミウムを流した会社と、健康被害を受けて苦しんだ住民たちが最初は裁判で対立したけれ

ど、長い時間をかけて話し合い、信頼関係を結び、「二度とイタイイタイ病起こさない」という思い、そして、「もう一度美しく豊かな環境を取り戻そう」という思いをお互いにすり合わせて努力を続けてきたことで、今の安全な自然環境を取り戻すことができたのだと思います。でも、ここまで取り戻すためには、長い年月と労力と大きな費用がかかっています。

最後に、ぼくにもできることは何か考えてみました。それは、富山県でイタイイタイ病に苦しんだ人たちのことを忘れないこと、今日学んだことをまだ知らない人に伝えていくこと、そして今ある自然環境を守り続けることだと思います。資料館を訪れてくわしく知ることができて、本当に良かったです。

* 高学年部門 *

佳作

苦しんだ人をむだにしないために

高岡市立福岡小学校 五年

上島 かみしま あかり

わたしは、校外学習に行ったことがきっかけで、イタイイタイ病について知りました。

イタイイタイ病資料館では、名前の由来やかんじやのしようじょう、発生した原因など、さまざまのことが分かりました。そして、実際に家族がイタイイタイ

病だったという、語り部さんの話を聞きました。発生した当時では、「家族がイタイイタイ病だ。」と、おおっぴらには言えない時代だったことも知りました。

そんなイタイイタイ病資料館で、心に残ったことがあります。それは、イタイイタイ病は、富山県内の限られた地域でおきた公害でした。そんな公害の原因が富山県内ではなく、岐阜県の神岡鉱山という会社が原因だったということです。原因物質は、カドミウムという物質です。そのカドミウムを神通川に流したことで、その水を使用し、体内に入れた人がイタイイタイ病になり、その人だけでなく、家族も苦しみ、差別を受けるようになったりしてしまったのです。

そんな中、語り部さんの話はこうでした。

「私の父は、イタイイタイ病かんじやに寄りそい、かんじやの方の家をまわっていて、いない毎日があったりまえになっていました。それに、苦しむ人々のため

にさいばんをおこすことを決意し、ひ害にあった地域の人に声をかけました。声をかけると、石を投げかけられたり、夜中に、命をおびやかされる電話や、いやがらせの電話があつて、家族であるわたしにもえいきょうしました。」

そうおっしゃっていました。いやがらせなどにあつていた理由は、「米が売れなくなるから」でした。その後、さいばんをおこし、ひ害住民がさいばんに勝ちました。このことを知って、「努力はむくわれる」の意味がよく分かりました。

そして、住民やたくさんの人々の努力、神岡鉱山の協力のもと、今の神通川、流行した地域の復元ができました。神岡鉱山のカドミウムを流すという軽い行動でも、多くの人々がぎせいになり、解決には長い時間とたくさんのお金が必要でした。環境をきれいにしないといけないという思いが高まり、たくさんの人で環境

を守りたいと思いました。

最後に、語り部さんの父の言葉がありました。

「真実を真実として語りつぐ。」

この言葉を聞いて、こんなことはもう二度と起こしてはならない。そう考えると、語り部さんの話を聞いた自分たちが歴史のバトンを継がないといけないのです。まず家族から、そして、イタイイタイ病の歴史を伝え、もうそんなことにならない社会にしたいと思いました。



* 高学年部門 *

佳作

語りついでいく大切さ

富山市立鵜坂小学校 六年

林^{はやし}直矢^{なおや}

ぼくの学校の近くに、『カドミ汚染田復元記念』と書かれた石ひがあります。それには、総事業量 一・二・三・九九haと書かれていました。一・二・三・九九haがどれくらいの大かさなのか調べてみたら東京ドーム二十六個分でした。それだけの広さが汚染され、復元

されていたことにとてもびっくりしました。ぼくは、学校でもイタイイタイ病資料館に行き、イタイイタイ病について習いましたが、石ひを見たことでより身近に感じたのでくわしく調べてみたいと思いました。

そこで、清流会館に行ってみることにしました。まず入り口にあった資料を見ると、まさに自分の住む地域で起きていることなんだと実感しました。

次にぼくが気になったことは、汚染された土地をどうやって直したのかです。もう一つの資料を見ると、まず汚染された土を集めて深いほりを作ります。そこに汚染された土を入れ、その上に耕ばんを置いて、汚染されていない土を乗せて直したと書いてありました。ぼくは、汚染された土を捨てていたと書いていたのでとてもびっくりしました。

そこで、なぜ汚染された土を捨てなかったのか気になりました。東日本大しん災で起きた福島第一原発事

故では、汚染された土は捨てることになっているのに、カドミウムで汚染された土は捨てなかった理由を調べてみると、処分する費用や、排出される汚染土が大量にあるため、当時は、処分が困難だったということがわかりました。

昨年、イタイイタイ病のかん者として認定された最後の生存かん者の方が亡くなり、生存かん者はゼロとなりましたが、イタイイタイ病は終わったわけではありません。カドミウムは一度入ったら体の中から出ることはないので、今も、定期検診が行なわれています。また、汚染土の上に置いた耕ばんがこわれてきたり経年れっ化の問題があります。だから、ぼくはイタイイタイ病が完全に終わることはないと思います。

このことは、十四年前に起きた福島第一原発事故の処理問題にも共通することだと思います。イタイイタイ病にしても福島第一原発事故にしても、時代が変

わっても、悲さんなことが起き、苦しんでいる人がいることを忘れないようにすることが大切だと思います。また、日本だけではなく、今後、世界のどこかでもこういった事故や公害は起こるかもしれないと思います。

だから、イタイイタイ病資料館や清流会館などの施設があることによって、後世に語りついでいくことが大切だと思います。ぼくも、イタイイタイ病を一人でも多くの人に伝えていきたいです。



* 高学年部門 *

佳作

イタイイタイ病

射水市立新湊放生津小学校 六年

明^{みょう} 大世^{たいせい}

第二次世界大戦後の日本は、大きく経済成長をしました。日本の生活が豊かになってきた反面、四大公害病が起ってしまいました。そのうちの一つ、「イタイイタイ病」は、私たちが住む富山県の神通川下流域で起こりました。さらに、イタイイタイ病は、四つの

公害病の中で、最も長く影響を及ぼした恐ろしいものです。手足の骨がもろくなり、激しい痛みが起る病気です。校外学習で、イタイイタイ病資料館に行きました。入ったしゅん間、今にも、

「いたい、いたい。」

という声が聞こえてきそうでした。とても辛い気持ちになりました。長らく原因がわからなかったため、

「あのうちに嫁にいくと、得体の知れない病気がうつる。」

「あのうちには、ばけもんがいる。」

など言われ、差別がありました。

コロナウイルスが、日本にやって来た当初を思い出しました。今でこそ、コロナはインフルエンザのようなものですが、当時は、感染者は陰口を言われるというニュースをよくみました。だから、きっとイタイイタイ病の感染者は、もっと辛い思いをしていたと思い

ます。

資料館で、感染者の骨と正常な骨のモデルがあり、実際に持ち比べてみました。とても驚きました。患者の骨は、まるで、空気をもったように軽かったです。これは痛かったはずです。痛さは、「息を吸うとき、針千本か、二千本で刺すような」と表現されています。痛そうに苦しんでいる写真も展示されており、苦しくなりました。

この富山県で、このような恐ろしく、苦しいことが起きていたとは信じられません。最初の患者が発生してから、約四十五年後、新聞報道され、ようやく世間で注目されるようになり、それからさらに十三年後、やっと、公害病と認定されました。約六十年経ってようやくです。私たち富山県民が、六十年もの長い間、原因不明の病気に悩んでいたと思うと、悲しいというより、腹が立ってきました。

原因は、神通川上流にある神岡鉱山という会社が神通川に流したカドミウムでした。このカドミウムが、富山県民の骨をもろくしたのです。まるで空気のように。腹は立ちましたが、神岡鉱山は、今でも定期的にかドミウムの調査を行い、さらに富山県住人は、毎年、神岡鉱山に立ち入り調査を行っています。これを五十年間も続けています。

私の兄が神通川付近の学校に通っているため、よく、神通川に架かる橋を通ります。神通川の流れはとてもゆるやかで、水面は、きらきらとかがやいています。多くの人々が、川をみながらランニングをしています。この美しい景色は、神岡鉱山と富山県民の努力によるものです。私も富山県民です。富山県民としてこの美しい川を守っていききたいです。



清流環境体験賞

低学年部門

最優秀賞

ずっときれいな海が
つづきますように

富山市立宮野小学校 二年

井上 いのうえ 結賀 ゆいが

今年の夏、あさ日町にある、みやざき海がんに行きました。

ぼくは、すなはまの海しか知らなかったけれど、みやざき海がんは、石がゴロゴロ、たくさんころがって

いる海がんでした。海のそばに立っている、ヒスイテラスというたてもので、近くにすんでいるおじさんが、石のせつめいをしていました。

「さんねん。これはヒスイじゃないね。」

と言っているのを聞いて、ヒスイってなんだろうと気になって、おじさんに聞きました。

「この海がんで、ヒスイというほう石がとれるんだよ。てんじしてあるから見ておいで。」

と言われたので、見に行ったらきれいなヒスイがたくさんありました。ぼくも、ヒスイを見つけてみたいと思います。

海には黒い石、白い石、赤い石、すき通ってみえる石、たくさんしゆるいの石がありました。この中に、ヒスイというほう石があると思うと、わくわくしました。ヒスイは、見つからなかったけれど、海の水は、とうめいで、石がきらきら、とてもきれい

でした。魚がおよいでいるのもみえました。夕日がしずむときは、海が真っ赤になって、ほんとうにきれいでした。

そんなきれいな海に、プラスチックゴミが、おちていました。おかあさんが、プラスチックゴミが、海にながれでると、ぶんかいされずに、小さなマイクロプラスチックになって、魚が食べ、その魚を人間がたべて、びょう気になるかのうせいがあるんだよ、と教えてくれました。

こんなにきれいな海が、よごれるのはぜったいやなので、ごみをきちんときめられたばしょにすてたり、プラスチックごみをださないようにしたりしたいと思いました。ずっときれいな海がつづいてほしいです。



低学年部門

優秀賞

夏のゲレンデ

富山市立新庄北小学校 二年

伊藤 一葉
いとう かずは

ふゆにスキーをしていた山に、夏にいつてみました。白かったゲレンデは、みどりていっばいになっていて、草がすぐくはえていて、森の木のはっぱがたくさんあって、前より大きく見えました。

山の上では、バギーという、四つのタイヤがつい

た、大きな車に、お母さんといっしょにのりました。ガタガタな山みちをはしると、体がすぐゆれて、まるでバイクのっているきぶんでした。とってもたのしかったです。とちゅうで、とおくの山がよく見える、高いばしょで、バギーからおりました。下のほうには、川も見えました。おちそうで、どきどきしたけれど、とてもきれいで、風が、きもちよかったです。でも、クマがでてこないか、ハラハラしました。ほそいみちを、バギーでゲレンデへかえました。

ゲレンデにもどり、バギーからおりて、まわりをあいていると、ヤギがゆったりと、日なたぼっこをしていました。草の上にすわって、目をとじて、夏をかんじていました。

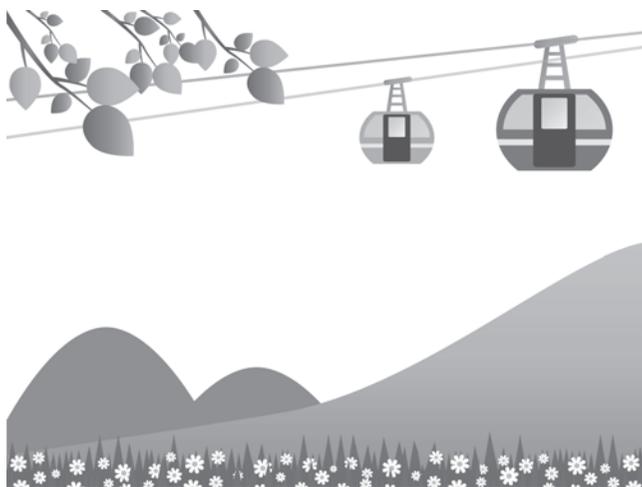
つぎに、となりのゲレンデへいくとちゅうに、とても大きいバツタがいました。はじめて見たバツタなので、しゅるいがわかりませんでした。すぐにお母さん

にしらべてもらおうと、トノサマバツタでした。わたしはまえから、トノサマバツタの名前はしっていました。が、本ものを見たのは、はじめてでした。いままで見たバツタの中で、一番大きくて、顔がでかくて、羽は長くて、ごまのようなもようでした。

となりのゲレンデには、公園がありました。わたしが、すべり台をすべろうとしたら、下からショウウリョウバツタが、いっしょうけんめいすべり台をのぼってきて、びっくりしました。バツタも、わたしにびっくりして、とんでいきました。つぎに、ターザンロープであそぼうとしたら、大きなとんぼがとまっていて、それはオニヤンマでした。目がとても大きかったです。つかまえようとしたら、公園より上に、にげてしまいました。

夏のゲレンデは、家のまわりにはいない虫もいて、ふゆのゲレンデとちがうばしょみたいで、どきどきわく

わくして、たのしかったです。



低学年部門

優秀賞

きれいなみずをいつまでも

富山市立宮野小学校 一年

悟道ごとう
陽菜ひな

いたそうだな。うでがいたくなるのかな。いやだな。わたしは、「イタイイタイびょう」という、なまえをはじめてきて、そうおもいました。

しらべてみると、からだのいろいろなところが、いなくなっとうごけなくなり、ひどくなると、しんでし

まうびょうきだとわかりました。それをきいて、わたしは、ぜったいになりたくないとおもいました。もつとしらべてみると、カドミウムでかわのみずがよくれたことが、げんいんだとわかりました。

わたしは、六がつにいえのちかくのたんぼで、たうえをしました。たうえをしたのははじめてで、なえがどんなふうにおおきくなるのかを、かんさつしています。あんぜんでおいしいおこめをつくるには、きれいなみずがたいせつとききました。

なつやすみには、ちくのぎょうじで、「かわのかんきょう・いきものちょうさ」をしました。パッケテストをすると、くすりをいれたみずは、ピンクいろになりました。ピンクいろになるということは、みずがきれいなことです。

かわには、かえるやかわにな、どじょうがいました。しらべると、かわには、みずのきれいなかわにいる、

いきものだとわかりました。わたしのすむちくのかわが、きれいでよかったな、このちくのかれいなみずでつくったおこめなら、あんしんしてたべられるとおもいました。いねかりをして、おこめをたべるのがたのしみです。

イタイイタイびょうのことをしらべたり、かわのちようさやたうえをしたりして、これからもずっと、いまのままのかれいなみずであってほしいと、おもいました。そうしたら、いきものやわたし、わたしのかぞくが、げんきにすごせるからです。

おばあちゃんになっても、きれいなみずのこのちくで、げんきにながいきしたいです。



低学年部門

優秀賞

カナヘビと友だち

富山市立宮野小学校 二年

坂本 さかもと
宙輝 ひろき

二年生になり、学校生かつになれてきたころ、友だちがカナヘビを学校にもってきた。さわってみると、おなががプニプニしていて、かおがかわいく、目がきらりとしていて、ぼくもつかまえたと思うた。

休みの日に、家のまわりを歩いていると、石のかべ

のところ、カナヘビをはっ見した。そーっと近づいて、手を広げてカナヘビをつかまえることができた。ぼくは、カナヘビが水をのむことを知っていたため、ペットボトルのふたの中に、水を入れて近くにおいた。カナヘビのすみかを作ろうとしたが、どうすればいいのかわからず、学校にもっていくことにした。

学校にもっていくと、友だちから、カナヘビのすみかについて教えてもらった。はっぱをひいたり、からだがかくれられるように、石をかさねたりして、すみかを作ることができた。

カナヘビは、あさからひるにかけてうごき、エサはバッタやクモ、コオロギといった自分よりも小さな虫を食べるそうだ。じっさいに食べるときには、ねらったエサのところこそーっと近づき、あたまからつつくむようにくわえるところを見ることができた。ぼくがカナヘビをつかまえたときのように、けはいがわから

ないように、つかまえるのだと思った。

カナヘビをそだてていると、ほかの友だちも、「さ
わりたい。」といい、クラスの子がきょうみをもって
くれて、カナヘビをそだてるなかま、『カナヘビぐん
だん』ができた。休みじかんには、エサをとりに行っ
たり、すみかの入れかえや、フンのかたづけをしたり
した。ある日、たまごがあるのに気がついた。カナ
ヘビは、たまごを食べることがあるそうで、あとでし
らべると、子どもをそだてることをせず、たまごをけ
りとばすこともあると知っておどろいた。

そして、一学期がおわろうとしたときに、カナヘビ
たちをにがしてあげた。カナヘビをとおして、友だち
といっしょに、生きものをそだてることができてうれ
しかった。

「カナヘビさん、たくさんあそんでくれてありがとう。
う。また会おうね。」



低学年部門

佳作

かわにごみをすてないで

富山市立速星小学校 一年

佐藤 倫久

ゆきがふるひに、はやほしこうみんかんのイベントで、さけのちぎよほうりゅうをしました。そこで、さけのちぎよほうりゅうをとおして、さけのことをしらべ、さけのきもちになって、かんがえてみました。ぼくは、さけのちぎよです。きよねんのふゆ、しよ

うがくせいや、ほいくえんのこどもたちが、つぼのわにほうりゅうしてくれました。ぼくは、2000ひきくらいのなかまといっしょに、ほうりゅうされました。これから、うみをめざしておよいでいきます。

うみにつきました。ぼくは、えさをさがしました。えさをたべるのは、せいちょうするためです。せいちょうしておとなになると、10センチくらいだったからでは、60センチくらいになります。たいじゅうは、5キロくらいになります。おとなのさけにせいちょうするまで、4ねんくらいかかります。

おとなになったぼくは、うまれたつぼのがわに、もどってきます。もどってくるのは、たまごをうみ、さけのこどもをふやすためです。かわにもどってくるときは、かわのながれとぎやくほうこうに、およがないといけないので、とてもたいへんです。でも、がんばっておよぎます。

ぼくから、にんげんのみんなに、おねがいがあります。ぼくがかえってくるかわを、きれいにしてほしいです。そのために、かわにポイすてをしないでほしいです。ポイすてをしないように、ポスターをつくって、みんなによびかけてほしいです。また、かわのゴミひろいをしてほしいです。それと、せいちょうしているぼくたちを、つかまえないでください。さけのなかまのかずが、へってしまいます。

このたいけんをおして、かわにすむさかなたちのきもちになって、かわをきれいにできるように、じぶんができることから、していきたいとおもいます。



低学年部門

佳作

せいりゅうとめだか

富山市立宮野小学校 一年

高島 たかしま
千瑛 ちあき

わたしは、まちのおまつりで、めだかすくいをしました。ちいさいかみのすくうもので、めだかをすくって、5ひきとりました。おみずのなかを、すいすいおよぐめだかは、みているとすぐくわいかったです。めだかをかうために、いえに、ちいさなすいそうを

かいました。みずは、すいどうすいで、カルキをぬいたものをつかいました。すいそうには、ちいさいいしや、かわでひろったすなを、いれてあげました。そして、めだかがかくられる、みどりのみずくさもかっ
てきて、まいにち、あさとゆうがたに、めだかをみま
す。いろや、およぎかたや、たべるときのくちのうご
きがちがっていて、5ひきともちがいがあることがわ
かります。

あるひ、いちばんちいさいめだかが、みずのうえで
じっとしていて、しんぱいになりました。そこで、す
こしみずをかえてみたら、また、げんきにおよぐよう
になりました。めだかは、きれいなみずがすきです。
もしも、よごれたみずになってしまったら、めだかは、
びょうきになったり、しんでしまったりします。だか
ら、すいそうのみずは、まいしゅう、すこしずつあた
らしいみずにかえます。そのとき、あまりいきおいよ

くみずをいれると、めだかがおどろいてしまうので、そっといれます。

めだかをかっていると、かわやいけのみずも、たいせつにしたいとおもいました。かわやいけのみずがきれいだと、めだかやほかのさかな、えび、かえるなど、たくさんいきものがすめます。みずがよごれてしまうと、いきものがすめなくなってしまう。

これからも、めだかをたいせつにそだてて、きれいなみずをまもっていきたいです。そして、なつやすみがおわっても、めだかのおよぐすがたをたのしみながら、せわをつづけます。



* 中学年部門 *

最優秀賞

幼いころの風景が
教えてくれたこと

富山大学教育学部附属小学校 四年

中山^{なかやま} 桃嘉^{ももか}

「ウォーン、ウィーン、ガッチャンー！」

四年くらい前のある日、突然、朝からさわがしい音が聞こえてきた。「まさか!？」と思い、玄関の外に出てみた。すると、いやな予感的中した。私が住むマ

ンションから目と鼻の先にある田んぼで工事が始まっていたのだ。ショベルカーが入り、ダンプカーが出入りし、見る見るうちに田んぼが住宅地になってしまった。

その年の夏の夜は、今までとちがって静かだった。なぜなら、カエルの合唱がほとんど聞こえなかったからだ。田んぼは、季節を感じる場所だった。春になると、オタマジャクシやアメンボやゲンゴロウがすいすい泳ぐ。夏になると、カモの親子が仲むつまじく泳ぎ、カエルが合唱する。秋になると、トンボが飛び交う。冬になると、大きな雪山ができる。私の心をたくさん動かしてくれた場所がなくなったのを実感した。私はもちろんだけれど、一番おどろいて悲しんでいるのは、生き物たちだろう。

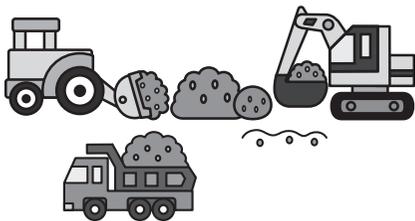
私の家のベランダでも変化が起きていた。それは、ツバメが来なくなることだ。私がこのマンションに

引越してきた三才のときから、たくさんのツバメが飛び交っていた。朝、ツバメがベランダから、「チュピチュピツ」と起こしてくれたり、朝ご飯を食べていると、ベランダの物干し竿の上から部屋の中を見ていたりした。部屋の中に入って来たりもした。ベランダで巣作りを始めたりました。ツバメは、私の家をしつかりチェックして選んでくれたのかもしれない。そう思うと、たまらなく嬉しい。しかし、そんなツバメとの時間はなくなってしまった。今では、住宅地の風景がすっかり普通になってしまった。

今年の七月、富山駅周辺の立体駐車場の一階のエレベーターに向かうと、私の背より少し低い看板に、小さな可愛いツバメがとまっていた。辺りを見渡すと、巣が三つあった。「富山駅の近くに、巣の材料やエサがあるのかな？」と疑問だったけれど、そのツバメは、私に幼い頃の記憶を思い出させてくれた。

住宅地の開発は、確かに地域を発展させてくれるかもしれない。しかし、たった一枚の田んぼでも、人間の活動が生き物たちに与えるいきよは大きい。もっと大自然を相手にした活動なら、なおさらだ。

地球は人間だけのものではない。そして今、人間も自然環境の変化に直面している。人間もあっけなく生活の場や命がうばわれることがある。当たり前だけれど、地球の生き物は、みんな自然とつながっている。幼いころの風景が教えてくれた。



* 中学年部門 *

優秀賞

環境を守るビオトープ

富山市立宮野小学校 四年

川住 悠貴

ぼくのおじさんの畑には、トノサマガエルがいます。無農薬で野菜を育てていたからなのか分かりませんが、他にトンボ、ヤゴなどがいます。三年前、そこにビオトープを作りましたが、暑くてひ上ってしまいました。そこで、今年の夏にもう一度作ることにしま

した。ビオトープとは、ギリシャ語の *biós* (生物、生命) と *topos* (場所) を組み合わせで作られたドイツ語で生き物の生息場所という意味があります。

まず、地面に穴をほって、ト口舟というプラスチックのおけを入れます。このおけが池の代わりになります。おけにはパイプをはめて、雨水であふれないようにはい水できる仕組みにします。これで生き物が流される心配がありません。

次に、エコトーンを作ります。エコトーンとは日本語で「移行帯」といい、二つのことなる環境が少しずつ変化しながらせつする場所という意味です。エコトーンがあることで、生き物が移動しやすくなります。山から持ってきたどろと水草と赤玉土で坂を作り、陸と水中をつないでエコトーンにします。

それから、穴をほったときに出た大きな石をつんで、

生き物のかくれ家になります。「石がきマンション」と名付けました。

そして、流木をおけに入れて、落ち葉をまきます。

最後に、水草とオタマジャクシとヤゴを入れて完成です。

しばらく様子を見ることにしました。植えた水草は元気になり、カゲロウやアメンボ、ゲンゴロウの仲間がやってきて、近くではコオロギが鳴いています。オタマジャクシには、足が生えてきました。生き物が、周りからやってきて、どんどんふえていきそうです。

ぼくは、こんなにすてきな自然が豊かな地域に住んでいることが、とてもうれしいです。ですが、お母さんが子どもところはホタルやメダカなどがいて、今より自然がいっぱいだったそうです。石や砂のあった川は、今はコンクリートでメダカなど一匹もいません。うらやましいなとずっと思っていました。今年、七

月に家の庭にホタルがやってきました。

「あっ、ホタルだ!!」

二匹だけですが、きれいに光っていました。自分の家にホタルがいることが、とてもうれしかったです。

このように、家の庭の自然を守りホタルがもつとふえて、来年もまた来てほしいと思いました。ぼくの家のビオトープは、今数少ない生き物がくらす大切な場所です。ぼくのビオトープをのこすことで、今ある自然といろいろな生き物を守りたいです。



* 中学年部門 *

優秀賞

桂湖かつらこの自ぜんの中で感じたこと

射水市立大島小学校 四年

森安もりやす 秀唯しゅい

この夏、僕は桂湖に行きました。桂湖は、山の中にある大きな湖で、とてもきれいな場所です。そこで、カヌーと沢登りを初めて体験しました。

カヌーは初めてで、お母さんといっしょにドキドキしながら体験しました。息を合わせてパドルを動かす

のがむずかしくて、うでがつかれて大変でした。でも、だんだん上手にこげるようになって、水の上をすべるように進むと、とても気持ちよかったです。湖の水は、エメラルドグリーン色で、周りの山や木がうつっていました。ぼくは、カヌーがとても楽しいと思いました。そして、自ぜんの中で体を動かすのは、すごく気持ちがいいなと感じました。

沢登りでは、川に入ると水が心地よく、足にあたる冷たさも気持ちよく感じました。その日は、気温が三十四度くらいあって暑かったのですが、沢に入るとマイナスイオンをたっぷりあび、川の音や山においても感じました。ガイドさんによると、水の温度は十度くらいで、山にのこった雪だけ水が流れているそうです。ぼくは、川の水が、「なんて冷たくてきれいなんだ。」と、おどろきました。そして、自ぜんの中にいるだけで、元気が出るように感じました。

イワナ釣りにもちょう戦しました。川にいるカワゲラのような虫をえさにしてつりましたが、むずかしくて一ぴきもつれませんでした。でも、じっと待っていると、川の水しぶきや流れの強い弱いがいろいろあって、川が生きることがよくわかりました。ぼくは、イワナがつかなくてざんねんだったけれど、この川で魚や虫が生きていることを知ることができてよかったと思いました。そして、この自ぜんを大切にしなければと思いました。

川の流れがゆるいところでは、泳いだり岩から飛びこんだりしている人もいました。とても楽しそうで見ているだけでもワクワクしました。川の水はすきとおっていて、石や岩が下の方までよく見えました。ぼくは、川の水がとてもきれいだなと感じました。こんな場所でみんなで遊ぶことができ、すごくいいなと思いました。

桂湖の川や湖の水は、魚や生き物だけでなく、ぼくたち人間の生活にもかかわっています。水がよごれてしまうと、魚が住めなくなるし、人も水を安心して使えなくなってしまう。ぼくは、川や湖の水を大切に、自ぜんを守ることが、これからの富山のくらしを守ることに繋がると思いました。

桂湖での思い出は、ぼくにとって大切な宝物です。これからも、富山の自ぜんを守れることをわすれずに、毎日の生活をしていきたいです。



* 中学年部門 *

佳作

総合の時間で出会ったカブトムシ

富山市立宮野小学校 四年

高畠^{たかばたけ} 花帆^{かほ}

私は、クラスの係で生き物係になりました。元々、生き物や植物についてくわしくなりたいと思っていたので、生き物係をすることにしました。私は、四年二組の生き物係として、ミニトマトやキュウリ、お花なども育てました。

ある日、総合のじゅ業で、「環境について」という勉強をしました。そこで、ざっ草が生えてこないようにするために、木のえだから作られたウッドチップを校庭のすみにまきました。そして、ウッドチップから二匹の幼虫が見つかりました。先生がていあんしてくれて、生き物係がその幼虫を育てることになりました。私は、生き物係として、がんばって育てようと思いましたが、それから、エサを用意し、かんそうさせないためのきりふきや、観察などのお世話を係のみんなですることになりました。私も登校したときに、きりふきや観察をしました。何週間かつづけると、二匹の幼虫はさなぎになりました。ぶじにさなぎになってくれて、私は安心しました。

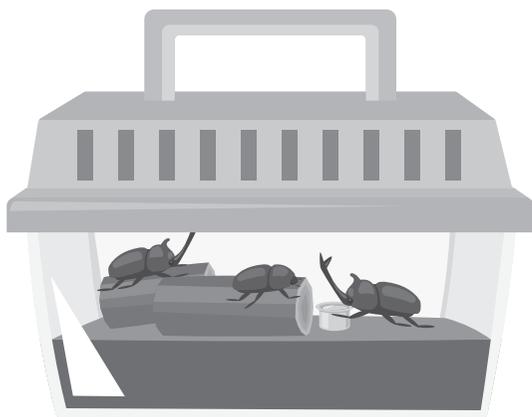
ある日、学校に行くと、先生やクラスの人たちがかごに集まっていました。私も行ってみると、さなぎの一匹が死んでいました。私は、「死んでしまい、か

わいそう。」もう一匹のさなぎは、死なせないようにしよう。」と思いました。暑い日が続いていたので、きりふきの世話を一日一回から二、三回にふやしてみました。お世話を続けると、さなぎは元気なメスのカブトムシになりました。クラスのみんなで話し合い、名前を赤りんごとしました。カブトムシになったのを見て、ぶじに成長してくれてうれしかったです。そのあと、先生がぐうぜん見つけたオスのカブトムシを持ってきてくれて、二匹のカブトムシを育てました。今は夏休みで会えないけれど、一学期の終わりまで元気にすごしていました。夏休みが終わってから会えるのが楽しみです。

カブトムシのお世話をした中で、メスのカブトムシが成虫まで育ったことがうれしくて、一番心に残っています。でも、もう一匹はさなぎのうちに死んでしまいました。この出来事から、生き物を育てるときには、

育て方を調べて、自分がその生き物についてくわしく知っておくことが大切だと思いました。

私は、やっぱり生き物を育てることが大好きです。生き物が成長していくすがたを見るのはうれしいからです。



* 中学年部門 *

佳作

未来の頂上

南砺市立利賀学舎 四年

高林たかばやし
佑衣ゆい

私は、南砺市利賀村で、山村留学をしています。私は、家族とでしか自然の体けんはしたことがありませんでした。それに山登りなんて、ぜんぜんしていませんでした。

そんな中、初めての山村留学での自然体けんは、利

賀にある金剛堂山の山登りでした。この登山というのは、いつもと違います。いつもは、だらだらとゆっくり家族とのぼるけれども、この日は、地元生や大人もふくめ、二十三人で登山します。一人一人がみんなと協力し合いながら登ります。

六月一日、金剛堂山山開き。あいにくこの日は雨。なかなかやみません。山開きは、神主さんにおはらいをしてもらいました。

さっそく出発。とは、なかなかいきません。歩く速さ、学年、体力、性別などがこととなり、休けいもいれて、一人一人に合った速さでゆっくりと進んでいきます。しりとりをしながら、仲よく登山をしました。しかし、雨は強くなるばかりです。歩くにつれ徐々に、みんなが同じように、「早く頂上についてほしい」という気持ちになっていました。それに雨だからか、早くついてほしいという思いがさらに高まりました。「こ

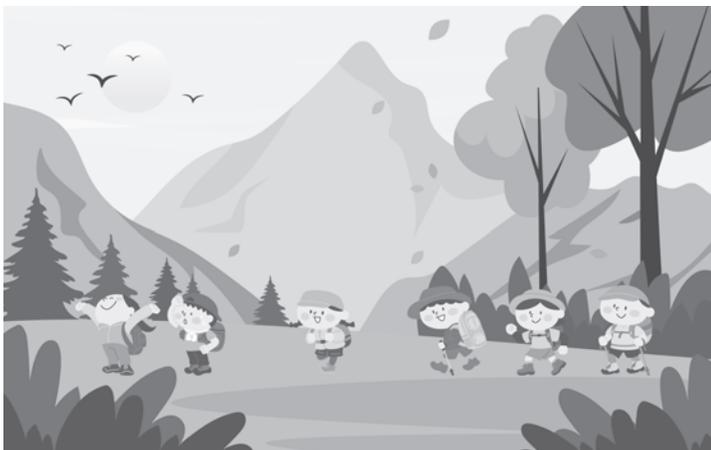
「これが頂上かな？」と思う地点が何回もありました。けれども、どれもはずれ。ぜんぜん頂上にはつきません。もう頂上に登って下山している人に、

「もう少しで頂上だよ。」

と言われました。みんな、信じていませんでした。少し登るとひらけている場所がありました。そこは頂上です！雨のえいきょうもあり、寒くてふるえている人もいたけれど、達成感がありました。

最後に、下山です。下り坂に水たまりがあったので、私は登りよりしんちょうに歩きました。笹がたくさん生えていて、笹のトンネルのようでした。笹をこえたら下り坂だけ。下り坂をおりてゴール。下山完了です。私は、この体けんをとおして、自然のゆたかさ、みんなで歩く大切さなど、いろいろなことが学べました。これからも、さまざまな自然の中での体けんをしていきたいです。次は、いい天気の日に気持ちよく金剛

堂山に登れたらなと思います。



* 高学年部門 *

最優秀賞

きれいな千保川を守りたい

高岡市立高岡西部小学校 六年

田子たご やくら

私が住んでいる町には、千保川が流れています。

千保川には、橋の左右に、金色の鳳凰像がある鳳鳴橋があります。毎年夏には、灯ろう流しがあり、鯉がたくさん泳いでいます。昔は、七夕流しが行われ、鮭の稚魚の放流があり、昔から地域で親しまれている

川です。

私の家の近くの千保川は、法面が石垣になっていて、石垣のすき間からたくさん雑草が生えてきます。だから、一年前までは、町内の人たちがみんなで年に一回、千保川の犬走りと石垣の清掃と草むしりをしていました。私もお父さんやお母さんと何度か参加したことがあります。

一年に一回の清掃と草むしりなので、私の身長くらいもある、まるで木のような草もありました。

以前には、千保川の草むしりをやめて、除草剤をまくという意見もあったそうですが、環境のことを考えて町内の人たちでの清掃と草むしりが続けられていました。

しかし、町内の人たちの高齢化が進み、危険だという理由で、一年前に清掃と草むしりを中止するようになりました。

これは、私の住む町だけではなく、ここ数年の間に高齢化が理由で、千保川の清掃や草むしりをしてきた町がまた一つ、また一つと減っていききました。

そして、何もしなくなつた今の千保川の石垣は、雑草がたくさん生えています。まるで木のような草もところどころで見られます。雑草が生えていると、せっかくの古城公園のようなかっこいい石垣も見えなくなつて残念です。それに、雑草がたくさん生えていると、害虫がたくさん発生して気持ちが悪しし、もし刺されたりすると健康にもよくないと思います。

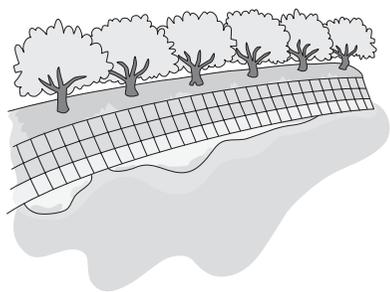
私は、雑草をぬいて、犬走りもきれいにしておく必要があると思います。

例えば、高岡西部小学校の五、六年生や高岡西部中学校の生徒、高岡第一高校や高岡商業高校の生徒と、地域の人たちで二つのグループを作り、年に二回、春と秋に清掃と草むしりをしてはどうでしょうか。

二つのグループに分けることで、一回分の作業量も減り、負担も軽くなると思います。

雑草が成長する前の春に草むしりをすれば、雑草が小さくて抜きやすいと思います。秋は夏に成長した雑草を抜き取ることで、次の春に雑草が生えにくくなると思います。春と秋に清掃をすると、熱中症対策にもなります。

他の人たちの意見も聞いて、みんなで協力して、美しい千保川を守っていききたいです。



* 高学年部門 *

優秀賞

初めて考えた食べ物のこと

高岡市立牧野小学校 五年

北村 奏太
きたむら そうた

僕には、6か月の赤ちゃんの弟がいます。最近、弟は離乳食が始まりました。ある日、スーパーで母さんがにんじんを選んでいるとき、僕は、「こっちのほうが安いよ。」と教えてあげました。いつものお母さんは、なるべく安いものを買っているからです。

でもお母さんは、「おうちゃんが初めて食べるものは、いいものをあげたいんだよね。」と言って、ちょっと高いにんじんをかごに入れました。僕は、なんとなく納得して、そのにんじんを見ました。いつもより色がきれいで、形も大きいにんじんで、特別なにんじんに見えました。

お母さんは、野菜や肉、魚の産地などをしっかり見て、「安心できるものがいい。」と言っていました。赤ちゃんは体が小さいからちょっとしたことでも気を付けないといけないことを知って、僕も、食べ物ってちゃんと選ぶことが大事なんだと思いました。お母さんは、普段も、家族のことを考えてご飯を作ってくれているけれど、赤ちゃんの食べ物は、特に気を付けているんだなと思いました。

学校で、田んぼへ行って田植えの体験をしました。足が抜けなくなつて大変だったけれど、ぬるぬるした

土の感触や、中に苗をさすのは、面白かったです。

自分たちで植えた苗が大きくなっていくのは楽しみです。このお米は給食にも出ると聞いて、普段よりも大切に食べたいと思うし、食べるのが今から楽しみです。

家で、紫蘇^{しそ}ジュースを作りました。お母さんが紫蘇を買ってきてくれて、「クエン酸がとれるし、夏にピッタリだよ!」と言い、一緒に作りました。紫蘇を煮て、レモン汁を入れると一気にキレイな赤色に変わってびっくりしました。匂いも強かったです。冷やして飲んで、甘くてさっぱりしていて、とてもおいしかったです。おいしかっただけじゃなくて、体にもいいことを聞いて、食べ物って大切だなと思いました。

こんなふうには、色々な体験をして、僕は、前よりも食べることに考えてようになりました。お母さんが野菜を選ぶときの気持ちや、体にいいものを食べ

させたいと思っていたことが、今はちょっとわかる気がします。

これらの食べ物やお米は、育てるために全てに水が必要です。安全な食べ物には、安全な水が必要です。おいしく安全な食べ物を食べるには、水をきれいにしなくてはなりません。

これからも、自分や家族が食べる物や水を大事にしていきたいです。



* 高学年部門 *

優秀賞

富山わんの魚を食べ続けるには

射水市立小杉小学校 六年

竹内 たけうち
柚遥 ゆずは

私は、富山わんで採れる魚が大好きです。特に、寒ブリや白エビ、カニが大好きで、富山に生まれ育ってとても幸せです。しかし、この大好きな海の幸が今のままでは数十年後には食べられなくなるかもしれない、との話を聞きました。その話を聞いて、今、富山

わんがどんな状態なのか、よりくわしく知りたいと思いい、「とやま海ごみワークショップ」に参加しました。

ワークショップでは、講師の先生が、射水市の六道寺海岸、海老江海岸で拾って来たゴミを見ました。ゴミは、サンダル、ボール等のうっかりぬげたり落したりしてしまったようなゴミから、ビニールぶくろ、ペットボトル、洗ざいの容器など故意に捨てられてしまったゴミなど、色んなものがありました。また、大きなゴミだけではなく、砂に混じったプラスチックのような小さなゴミも見ました。プラスチックのごみの中でも五ミリ以下の特に小さいものについては、マイクロプラスチックと言うそうです。

以前、本でこのマイクロプラスチックを食べた魚を、私たちが毎食、一週間食べ続けると、クレジットカード一枚分、一か月食べ続けるとクリーニングハンガー一本分のプラスチックを食べたのと同様になってしま

うとの話を読みました。

その時には信じられませんでした。本物のマイクロプラスチックを見たときに、こんなにも小さいものであれば、魚はエサだとかんちがいして食べてしまうかもしれません。私も知らないうちにプラスチックを食べた魚を食べているかもしれません。

講師の先生の話によると、ペットボトルのような大きさのプラスチックが、自然に分解されるには五百年から六百年かかるそうで、小さいものでも五年以上かかるそうです。

また、富山わんだけではなく、世界の海でもゴミがどんどん増えてきており、二千五十年には、海にいる魚よりもゴミの方が多くなってしまふとの試算もあるそうです。このままでは私の大好きな富山わんの魚が食べられなくなってしまうかもしれないので一刻も早くゴミを減らしていけないと感じました。

そのためには、私たちはどのようなことができるでしょうか。講師の先生の話では、海にあるゴミは海や浜辺で落とされたものではなく、その多くが、道などに落ちているゴミが風に飛ばされて、川や用水を伝って海に流れついているとのことでした。

これからは、自分が一つでも多くのゴミを拾うことで自分たちが活動する場所だけではなく、富山わんや魚が暮らす環境もより良くすることができるとはなにかと思いました。

大きな活動はできなくても、私ができることをけい続して行って、美しい魚をいつまでも食べ続けられるようにしていきたいです。

* 高学年部門 *

佳作

ハチの巣を調べて気づいたこと

富山市立宮野小学校 五年

濱野 はまの
弥禄 みろく

私は、この夏休みに自由研究で家にハチの巣があったからそれを調べてみました。その時にハチ巣の形が気になって、「ハチの巣がヒントをくれた角柱の強さ調べ」という自由研究をしました。ハチの巣とふれ合ったときに気付いたことが、四つあります。

一つ目は、ハチの巣を見たとき、意外に小さかったことです。長い間放置をしていたので、大きな巣になっただけだと思っていましたが、ふと見ると、小さい巣がちよこんとついていてびっくりしました。大きくなかったので採取がかんたんでした。

二つ目は、ハチの巣をかいたいて中を見てみて気付いたことです。ハチの巣の中身は、よう虫がいると思って、最初はいやな気持ちやこわい気持ちになりました。じっさいに輪切りやたて切りにしても、巣の中にはよう虫などいなくて、クモの巣がはってありました。だから、相当放置されていたと気付かされました。

三つ目は、なぜハチの巣は六角形なのかという疑問です。ハチの巣はなぜ六角形なのか気になって、実験をすることにしました。ノートに角柱のてんかい図をかきました。わくの大きさが同じなので、面積が同じ角柱になります。かいたてんかい図を切り取って、

画用紙にはり、内側からテープをはって作りしました。実験用に五つ角柱を作りました。ハチの巣よりも角が少ないものと、角が多いものを作ろうと思い、三角柱、四角柱、五角柱、六角柱、八角柱を作りました。

そして実験を始めました。用意するものは角柱、みっぺいようき、水です。水百mlずつ入れていき、それにしたえることができるのか調べました。まずは予想をしました。三角柱は二百mlまでたえそう。安定していて、こわれはしなそう。四角柱は三百mlまでたえそう。四つの角があるから三角より強そう。五角柱は四百mlまでたえそう。ハチの巣よりも弱そう。六角柱は六百mlまでたえそう。ハチの巣の形、安定したみたく。八角柱は七百mlまでたえそう。すごく安定しそう。六角柱よりたえそうだと考えました。

実験の結果、三角柱は千七百mlでたおれました。四角柱は二千四百mlでたおれました。五角

柱は二千百ml、六角柱は二千五百ml、八角柱は二千九百mlでたおれました。

この結果から、自分が思ったことは、作りやすくなおかつ、強いというメリットをもっている六角柱が最強だということです。水の重さにたえ、すごいと思いました。作りやすかった四角柱が、なぜか六角柱くらいにたえていたことがすごいと思いました。それに比べて五角柱は、全然たえられていなかったことがわかりおどろきました。

これからは、ハチの巣を見つけたときに、実験結果とハチのすごさを思い出します。

* 高学年部門 *

佳作

絶滅危惧種を守りたい

富山市立藤ノ木小学校 五年

見浦 みうら
柊羽 とうわ

ぼくは、小さい時から虫取りが大好きです。夏になると、お父さんと一緒に河原や山の中に行って、カブトムシやクワガタムシを捕まえていました。

いろいろな虫を捕まえてきて、今ぼくが夢中になっているのが、水生昆虫です。その中でもタガメが大好

きです。タガメは絶滅危惧種Ⅱ類で、近い将来絶滅のおそれがある生き物です。特徴は、前足が鋭くて大型のカメムシ目です。口には、口吻があり、前足で捕まえた生き物を、口針から強い消化液をだして、肉をドロドロにして吸います。その大きさと強さがとてもかっこいいと思いました。

ぼくは、そんな希少な生き物を、見てみたいと思って、お父さんと一緒にインターネットで調べてみただけで、生息している場所がなかなかわかりませんでした。どうしても見てみたいと思い、お父さんと実際にいろんな県に行って探しました。なかなか見つかることができなかつたけれど、あきらめず、梅雨前になると、週末にかけてタガメ探しの旅にでかけていました。探し始めて一年半ぐらいたったころ、いつものように夕暮れの時間に、水路のあたりをガサガサしていました。暗くなつたし、「もう帰ろう。」とお父さんが言っ

たので、ぼくは最後のひとすくいと思って網を思いっきりガサガサしました。網の中を確認すると、大きな影がゴソゴソ動いているのがわかりました。わくわくしながら網の中をみると、大きなタガメがいたのです。本物のタガメを見たのは、初めてだったので、お父さんと、大興奮しました。何度も探した場所だったし、見つけることができないという気持ちも少しあったので、見つけることができ、本当にうれしかったです。

次の年も、同じ場所を探しに行きましたがタガメを見つけることができず、どうしていなくなったのかと心配になりました。そんな時、ドローンが田んぼの上を飛んで農薬をまいているのをみかけました。本で読んだことがあったけれど、その姿を見て農薬もタガメが減少している原因の一つだとぼくは思いました。お父さんが、田んぼで作業していた人と話をして、田んぼで米を育てている人がドローンや農薬を使っている

のは、農作業をする人が少なかったり、農薬を使わないと、他の虫たちなどに米を食べられるからだとも知りました。

ぼくは、これから絶滅のおそれがある生き物が生き残れる環境を残すために、減少している原因を調べてその原因を減らしていきたいと思います。

そしてタガメについては、家で幼虫を育て、成虫になった個体を少しずつ生息地に戻して行く活動をしたと思います。





清流環境科学賞

低学年部門

最優秀賞

耳をすませばきこえてくるよ

砺波市立砺波北部小学校 二年

水戸^{みと} 彩音^{あやね}

「みなさん、よるに、外の虫の声をきいたことはありませんか。」

先生が、音楽のじゅぎょうで、みんなにしつもんしました。わたしは、

「うちにいても、あんまり虫の音がきこえたことがな

いな。」

と思っていました。

わたしは、四人兄弟です。学校からかえるとみんなであそんだり、テレビをみたり、しゅくだいをしたりしてすごします。家ぞくみんながそろうと、家の中は、とてもにぎやかです。そのせいで、虫の声にきづくことができていませんでした。

「虫の声は、どんな声だろう。」

と、だんだんきになってきました。よるは、テレビを見てすごすことが多いけれど、一どテレビをけして、おへやをすこしくらくして、外の虫の声に耳をすませてみることにしました。すると、「チーンチーン。リーンリーン。」と、スズ虫やマツ虫の音がきこえてきました。とてもきれいな声でした。そして、春にきこえていた、たくさんのカエルの音がきこえなくなってきたことに気づきました。生きものの声をきくこと

で、きせつがかわっていくことが、かんじられました。

そして、そのほかにも、夏にはセミの声、夏のあついにおい。あきには、だんだんつめたくなる風、空いっぱいにとびまわる赤とんぼ、スズ虫の声。雨の日には雨のおいなど、きせつやしぜんは、見たり、きいたり、においをかいだりして、体ぜんたいでかんじることができるといことがわかりました。

テレビを見たり、家ぞくでお話をしたりして、にぎやかにすごすのも楽しいけれど、ときには、しぜんの音に耳をかたむけて、すごすのも楽しいと思います。つぎは、ふゆの音がきこえてくると思います。

「どんな音がきこえてくるかな。」
わくわくしてきました。



低学年部門

優秀賞

海に行ったら

富山市立八幡小学校 二年

中西なかにし 琉菜るな

わたしは、海が大スキです。海からわたしの家は、
近いです、海にたくさん行きます。

赤ちゃんのとき、はだしで入っていた海ですが、今
は、マリンシューズをはいています。なぜかという
と、さいきん海に、たくさんゴミがおちているから
です。

食べものやペットボトル、つりの糸やはりもあり
ました。どこからか、海をぶかぶかとながれてきたの
だと思います。

海でおよいでいると、魚たちに、出会うことがあ
ります。ぶかぶかながれてきたゴミたちといっしょに、
海をおよいでいたのかな。ごはんかと思って魚たちが
ゴミを食べてしまったら、どうするんだろう。つりの
糸に体がからまって、ケガをしたり、しんでしまっ
たりすることもあると思います。

海や川は、ゴミばこではありません。海や川にもつ
てきたものは、きちんと家にもちかえらなければい
けません。

この前、家の前でスーパーボールであそんでいま
した。スーパーボールは、高くはねてしまって、近くの
小さな川におちて、ながれて行ってしまいました。わ
ざとおとしたわけじゃないので、わたしはとてござん

ねんに思いました。けれど、よく考えると、そのスーパーボールは、海にながれて行って、もしかしたら、魚たちをこまらせていたのかもしれない。わたしみたいに、わざとじゃなくても、川になにかをおとしてしまつて、海の生きものをきけんにあわせている人は、たくさんいると思います。

わたしたちのゴミを食べた魚を、わたしたち人間が食べると思つたら、なんだか、いやな気持ちになりました。魚たちが気持ちよくおよいで、わたしたちも海で、気持ちよくすごせるようになるといいなと思います。せかいの人、一人一人が気をつけると、きっときれいな海にもどるはずです。



低学年部門

優秀賞

まもりたい 海のたからもの

富山市立宮野小学校 二年

藤澤 ふじさわ 惇希 あつき

「二一〇〇年までに、全ての生きものがいなくなって
しまうかもしれません。」

四年生のはっぴょうで、このことばを聞いたとき、
すぐくびっくりしました。どうぶつは、ほにゅうるい
だけだと思っていたら、お母さんに、魚も虫もどうぶ

つだということを言われて、ぼくの好きな魚が食べら
れなくなると、かなしくなりました。そして、この
後のちきゅうは、どうなるのだろうかとしんぱいになり
ました。

夏休み、氷見で地引きあみ体けんをした後、お父さ
んに、と山けんさいばいぎよぎょうセンターへ、つれ
て行ってもらいました。さいばいぎよぎょうとは、た
まごからそだてた魚の赤ちゃんを、海にほうりゅうし
て、大きくなってからとることだそうです。

センターに入ると、カーテンがしめられたばしょが
ありました。中に入ると、ゆかからてんじょうまであ
る、大きな水そうに、クロダイの赤ちゃんがいました。
たくさんのおうしがちらばっているみたいでした。見
ていると、センターではたらく人が、「五十万びき生
まれたけれど、この水そうの中で五万びきにへっちゃ
うんだよ。」と、教えてくれました。水そうの中でも

それだけへってしまふから、本当の海なら、えさを食べられなかったり、ほかの魚に食べられたりして、もっと少なくなってしまうと思います。けれども、さいばいぎよぎようなら、海の魚を、へらしすぎないようにすることが出来ます。この先も魚を食べられるようにしていることがわかりました。

はじめて知ったことばかりでした。ぼくは、まだ子どもで、できることは少ないけれど、知ることをつけていったらいいと思います。

これからも、おいしい魚が、たくさん食べられますように。



低学年部門

優秀賞

かわとにんげんといきもの

富山市立杉原小学校 一年

水野 みずの
源隆 げんりゅう

ぼくのおとうさんは、たんすいぎよのけんきゅう
しゃです。たまに、ちょうさやつりをしに、かわにつ
れていってもらいます。いついつても、かわにはたく
さんのごみがあります。ひとがすてた、たべものご
みがおおいです。なぜ、かわにごみをすてるのか、ぼ

くは、ふしぎにおもいます。

かわのみずは、うみにながれていきます。まえに、
すいぞくかんにいったとき、ひとがすてたごみを、た
くさんたべてしんでしまったいきものの、おなかのて
んじをみました。どうしてこうなるんだろうと、かな
しいきもちになりました。

ぼくは、まいにちみずをのみます。せいかつすると
き、みずをたくさんつかいます。みずがたいせつなの
は、にんげんだけじゃありません。さかなも、とりも、
どんなせいぶつにも、みずはひつようです。そのみず
を、にんげんがよごすのは、よくないことです。だから、
ぼくは、みずをたいせつにしたいとかんがえました。

まずは、じぶんでかわなどに、ごみをぜったいにす
てません。そして、つりなどでかわにいったとき、ご
みを見つけたら、ひろってかえるようにしています。
それでも、ごみはなくなりません。すてるひとのほう

が、おおいのだとおもいます。

ひとりでもやっても、あまりごみはへらないけれど、かぞくやともだちといっしょに、ごみをひろうようにしたら、すこしずつでもきれいになると、おもいます。たくさんのひとが、きょうりよくをしていくことで、かわやみずべのごみが、はやくなくなるとおもいます。みんなできれいにしていくために、ぼくは、これから、「いっしょにごみをひろおう。」と、こえをかけていきたいです。

きれいなかわを、さかなやいろいろないきものたちがおよいで、ぼくたちがみずあそびをして、しぜんといんげんが、ながくいっしょに、せいぞんしていけるかんきょうを、つくっていききたいです。



低学年部門

佳作

めだかのひみつ

富山市立宮野小学校 二年

高島 たかしま
紬 つむぎ

なつやすみのはじめに、町のおまつりで、めだかす
くいをしました。小さなポイをつかって、ゆっくりす
くうと、ぴかぴか光る、七ひきのめだかがはいりまし
た。いえにかえて、すいそうに入れると、すいすい
と、元氣におよぎだしました。

わたしは、まい日めだかをかんさつしています。え
さをあげると、口を小さくあけて、パクパクたべます。
七ひきのうち一ぴきは、しっぽを大きくふって、すば
やくおよぎ、もう一ぴきは、ゆっくりとおよぎます。
よく見ると、体の色やもちがっていて、おなじ
めだかでも、ちがいがあることに気づきました。

めだかのことを、もっと知りたくなって、本でしら
べてみました。めだかは、きれいな川や田んぼの水に
すんでいるそうです。水がよげると、生きられない
ので、きれいな水がみつようです。むかしは、田んぼ
や川にたくさんいたけれど、今は、すくなくなってい
ると知っておどろきました。

わたしのすいそうには、カルキをぬいた水を入れ、
小石や水草を入れました。水草のあいだを、めだかが
およいだり、はのかげで休んだりします。水草は、水
をきれいにしてくれるので、めだかには大じです。

めだかを見ていると、小さなのちでも、生きるために工夫をしていることがわかります。

めだかをそだてていると、えさのあげすぎで、水がにごったことがあります。にごった水では、めだかが元気をなくすので、すぐに水をとりかえました。それから、えさのりょうや、水かえの日をかんがえて、めだかが、元気でいられるように気をつけています。

川や池の水がきれいなら、もっと多くのめだかや生きものが元気にすごせます。わたしは、これからもめだかを大じにそだてながら、自ぜんや生きものをまもることを考えていきたいです。



* 中学年部門 *

優秀賞

水を大切に、
そしてよごさないために

高岡市立高陵小学校 四年

加藤 咲

私は、夏休みにしよく業体けんに行きました。学校の社会のじゅ業で、かんきょうや水のことについて学んで、きょう味があつたので、アイザックという会社
のしよく業体けんを選び、よごれた水を安全な水に変

えるという実けんをしました。

実けんは、青い絵の具をとかした水に、三つの液体を入れて、きれいな水にするというものです。まず、一つ目の液体を入れて、ようきを十回ふると、だんだん色がこくなってきました。二つ目の液体を入れて、またようきを十回ふると、よごれのかたまりがようきの下にたまって茶色くなっていました。三つ目の液体を入れて、さらにようきを十回ふると、全部のよごれのかたまりが、ようきの下にたまっていました。さい後に、ろかをしてきれいな水を取り出しました。

私は、「あんなに絵の具で青かった水が、本当にとうめいになっていてすごい！」と思いました。アイザックの人は、よごれた水を自然にかえすときは、中性にしなければいけないと言っていて、ろかした水をリトマス紙につけると中性になっていました。

私は、「なんで中性にしなければならぬのだろ

う？」と思い、家に帰ってから調べてみると、水っ
おせんをふせぎ、生たい系を守ることが出来るからだ
そうです。アルカリ性や酸性は、生き物の体をきずつ
けたり、下水管をボロボロにしたりするおそれがある
ので、中性にしなければならぬということが分かり
ました。

今回は、少しの量の水をきれいにしただけだったの
で、かんたんでしたが、もっと多くの水がよごれてい
たらきれいにするために、多くの人や多くの薬品やび
生物の力が必要です。すぐ大変だと思うので、皿を
あらうときはせんざいを使いすぎない、シャンプーや
リンスは必要な分だけ使うなど、できるだけ水をよご
さない生活を心がけようと思います。

みなんで水を大切に使い、水をきれいにする手間を
へらすことを目標にして、家族や友達にも、
「水を大切に使ってね。」

とよびかけていきたいと思っています。



* 中学年部門 *

優秀賞

富山のきれいな川を守りたい

高岡市立高陵小学校 四年

金城きんじょう 美依那みいな

わたしは、この夏、家族と宇奈月ダムに行った。そして、ダムのいろいろなはたらきを知った。ダムのはたらきは、主に三つあることが分かった。

一つ目は、こう水をふせぐこと。高い山で大雨がふると、その水はいつぱんに、かたむきの急な黒部川を

流れ落ちてこう水となり、町ではらんを起こす。ダムでは、水をいったんダムにため、ちょうどよい量を少しずつ流し、はらんをふせぐはたらきがある。二つ目は、水道の水を送ることだ。飲み水はもちろん、りょう理、せんたく、お風呂など、水道の水はわたしたちのくらしに必要不可欠なそんざいだ。三つ目は、電気をつくることだ。ダムでは、ためた水を利用するために、宇奈月発電所をつくり、さい大二万キロワットの電気をおこす。この発電量は、ほぼ三千戸の家庭が使用する量にあたる。このように、ダムは、わたしたちの生活にかかせないそんざいである。

一方、ダムには問題点もある。それは、川の生き物の生たいけいをこわしていることだ。四月にアユのち魚を放流をしているニュースを見た。なぜ、アユのち魚を人間の手でもどしているのかふしぎに思っていた。アユはたまごからかえると、水に流されるように

川を下る。そして冬の間は、海で生活する。海で成長したわかアユは、春に川に上り、川での生活が始まる。これがアユの一生だ。しかし、ダムができたことにより、下流の流れがとぼしくなり、水なし川のようになったところもあるそうだ。だから、アユは自分たちの力で川にもどってこれなくなり、人間が助けるひつようが出てくるし、アユの数もげきげんしている。人間が作ったダムのせいで、生き物たちのすみかがなくなり、生き方も変わってしまったている。

しかし、今さら、ダムがない生活にもどることはできない。だから、少しでも川の水がきれいになるように、わたしにできることがないかと考えた。かわらや海で遊んだときに、ごみを分べつして持ち帰ることと、落ちているゴミをひろうことを実せんしたい。家では、油よこれをふきとってから洗うことや、食べのこしをしないことを習かんにしたい。せんざいはて

き量を使いむだ使いしない。

これからも、川にすむ生き物たちの生活をこわさないように、私にできることを続けたい。



* 中学年部門 *

優秀賞

富山県の安全・安心な水

富山市立宮野小学校 四年

廣崎^{ひろさき} 結望^{ゆめの}

わたしは、社会の学習で、じょう水場や下水しより場などについて学習しました。そして、汚水からきれいな水にかわることが分かりました。

きれいな水を作るときには、じょう水場にあるいろいろな池を通る間に、ごみやにごりが取りのぞかれ、

消どくされて飲める水になります。飲めるようになるまで約八時間かかります。また、じょう水場にあるいろいろな機械をそうさし、交代しながら二十四時間休むことなく動かしています。そして、毎日決まった時間

間に検査しています。いろいろな水道、水のゆたかなわたしたちの富山県では、水道の水として川の水や、地面の下を流れる地下水を利用して川の水や、地面の下を流れる地下水は、自然にろ過されているのでとてもきれいです。また、個人で井戸をほり、地下水をそのまま利用している地いきもあると分かりました。

二上じょう化センターでは、一日に約七万立方メートルの水をきれいにして、川へ流しています。このよ

うな下水しより場は、富山県内に合わせて二十九か所あり、水のきれいな富山県をささえています。

下水しよりでは、家庭や工場から出された下水は、

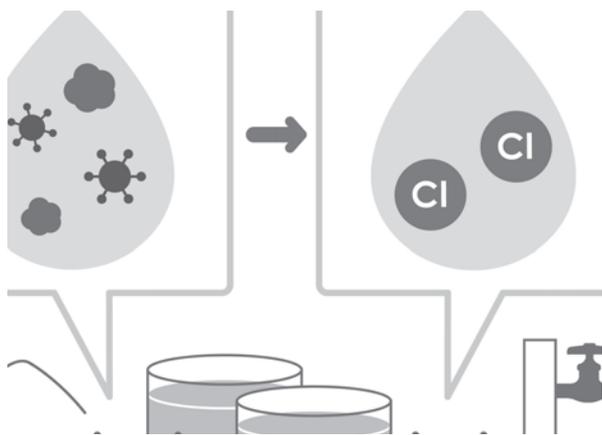
太い下水かんを通って、このじょう化センターに集まります。じょう化センターでは、び生物のはたらきをかりて水をきれいにしています。

そして、きれいになった水は、さい後に消どくし、安全・安心な水にしてから川へ流します。取りのぞかれたどろなどのかたまりは、高温でとかしてすなのよななものにします。また、きれいにした水の一部は、道路の雪をとかすために利用し、さい後にできたすなは、土木工事に利用されています。

富山県は、大きな川が何本も流れ、ゆたかな水にめぐまれていることが分かりました。また、家庭で使う水の量がふえたり、地下水を多く使う工場がふえたりすると、地下水が少なくなってしまう。水を大切ににし、使い方をくふうすることが必要になってきます。そしてわたしは、自分でも水を節水して、水が少なくならないようにしていきたいと思います。ま

た、きれいな水にするためには、たいへんだと分かりました。

これからも水を大切にし、富山県の水をきれいにたもちたいと思います。



* 中学年部門 *

優秀賞

ラミちゃんが食べるイシクラゲ

富山市立宮野小学校 四年

山口 やまぐち
恵生 えみ

三才になったポメラニアンのラミちゃんとお散歩に行くとき、困っていることがあります。

それは、道路のはしっこに生えている、黒いわかめのようなバリバリしているものを、口に入れて食べてしまうことです。口に入れるところを見ていれば、お

母さんがラミちゃんの口に入れて出させるのですが、気がつかないうちにこっそり食べて、飲み込んでしまうことがあります。

ラミちゃんが食べてしまっても具合は悪くならないし、もしかしたら食べられるものかなと思っていたところ、富山市科学博物館で行われた小さなコケの観察会に参加しました。身近にあるコケを採取し、名前やとくちょうを教えてもらい、けんびきょうで見る体験は、とても不思議でおもしろかったです。

そこで、学芸員の酒井さんに、道路のはしっこに生えている黒いわかめのようなものについて質問しました。すると、

「それはイシクラゲというもので、ランそう類の仲間だよ。」

と教えてもらいました。

「一応、人間も食べることができて、私も食べてみ

たことがあるけれど、道端^{みちばた}に生えているものは、衛生^{えいせい}上おすすめできませんよ。」とのことでした。

それから、私はイシクラゲについて観察をしてみることにしました。雨が降った翌日に、ラミちゃんとお散歩をすると、イシクラゲが水分を吸って、ふよふよとふくらんでいます。それとは反対に、雨が降らず天気が良いときには、乾燥してパリパリになっています。ラミちゃんが好きなのは、この乾燥したイシクラゲです。水を含んでぶよぶよになったイシクラゲには、見向きもしません。きつと、ラミちゃんは、バリバリ食感のイシクラゲが大好物なのかな、おいしいのかな、と思いました。

イシクラゲについて、もう少し調べてみると面白いことがわかりました。イシクラゲは、生命力がとても強く、乾燥していれば百年たっても死なず、水を与

えると再び生き返るそうです。「イシクラゲを栽培し、健康食品にしよう。」という研究もあるようです。天ぷらやみそ汁、酢の物などにして食べている地域もあるようです。

ラミちゃんが食べてしまうパリパリの黒いイシクラゲは、食用で栄養もあり、保存もできるすごい食べ物だということがわかりました。今度、イシクラゲをけんぴきょうでかんさつしてみたいです。



* 中学年部門 *

佳作

ゴミの分べつと守りたい自然

富山市立宮野小学校 四年

坂口 さかぐち 由柚希 ゆずき

わたしは、富山県富山市婦中町に住んでいます。婦中町は、山と川にかこまれていて、とてもきれいなところですよ。

とくに、春になると山の上には、まだ雪がのこっていて、近くの神通川には、サクラの花がさきます。山

とサクラがいつしよに見えるけしきは、とてもすてきで、わたしは大スキです。夏は川で魚のつかみ取りや、水あそびをしたり、秋は田んぼのいねがきいろく実つて、まるで金色の海のように見えたりします。冬は雪がふってまちが白くなり、雪だるまをつくったり、家族とスキー場へ行ったりして遊ぶことができます。

わたしの住んでいるまちは、自然がゆたかで、生き物もたくさんいます。川には魚や虫がいて、ときには、サギやカモも見られます。ハクチョウも羽休めに飛んで来ます。田んぼにはカエルがいて、夜になると、ゲコゲコとなきごえがひびきます。わたしは、そんな婦中町の自然を大切にしたいと思います。

学校で、ゴミの分べつやりサイクルについて勉強しました。わたしたちの町でも、ゴミを出すときに、「もえるゴミ」「もえないゴミ」「しげんゴミ」と分けることになっています。「しげんゴミ」は、ビンやカンや

ペットボトルなどで、また使えるものです。わたしはこの前、ジュースを飲んだ後に出たペットボトルを水で洗って、「しげんゴミ」の場所に持っていききました。そうすると、それがまた新しいビンやペットボトルに生まれかわることをお父さんから聞いて、すごいなと思いました。

でも、世界ではゴミがふえすぎてこまっている国もあると聞きました。特にプラスチックのゴミは、海の魚やカメがまちがえて食べてしまうことがあるそうです。それを聞いて、わたしはとても悲しくなりました。わたしたちがすてたゴミで、生き物がこまってしまうのはいやだと思いました。だから、わたしはできるだけだけゴミを少なくしたいです。たとえば、コンビニでふくろをもらわないで、自分のエコバッグを持っていくことや、まだ使えるものをすぐにすてないで大切に使うことをこころがけています。

わたしは、婦中町の自然や、きれいな川をこれからも守っていきたいです。そのために、ゴミの分べつやリサイクルをがんばりたいと思います。小さなことでも、続ければ大きな力になると信じて、わたしもできることから始めていききたいです。



* 高学年部門 *

最優秀賞

ホタルと自然

滑川市立田中小学校 五年

柏原 かしはら 優真 ゆうま

「子供のころは、この辺りにもホタルがたくさん居たんだけどな。」

お母さんが近所の用水をのぞき込んでこう言った。

僕は、正直、疑った。なぜなら、ホタルが光っているところを見たことがなかったし、当たり前に見られる

なんて信じられなかったからだ。

僕の学校では、ホタルを呼び戻すためのビオトープをつくり、研究を重ねている。お母さんが言った通り、三十年程前までは、学校の敷地を流れる用水にもホタルが居たそうだ。それがどうして居なくなってしまったのだろうか。

理科の授業で、ホタルの生態や校区内を流れる川の状態、周りの環境について調べた。まず、ホタルの幼虫の餌となるカワニナが息する条件として、微生物や生き物の死骸、落ち葉などの沈殿物といった有機物が含まれる川が良いらしい。また、川底には砂や小石が多く、流れが緩やかなことも挙げられる。ホタルの成虫は、天敵から身を守るための茂みが必要としている。つまり、用水の周りがコンクリートで舗装されて整いすぎた場所では、安心して居られないということだ。

ホタルの研究を続けている先生に話を聞いたところ、別の場所から自然のホタルを捕まえてきて用水に放す方法もあるが、この地域の生態系を乱す可能性があるという。これらのことから、少し手を加えれば自然とホタルが増えるという簡単な話ではないことが分かってきた。

今の生活と、昔の生活との違いはどうか。僕たちの町は夜でも明るく、便利な生活を送っている。けれど、ホタルの生態上、明るさにとっても敏感で、光でコミュニケーションをとるホタルにとっては住みにくいといえそうだ。オスとメスが出会えなければ、繁殖もできない。また、家庭や工場からの排水が原因で、水中が富栄養化してしまうことがホタルに悪影響を与えたりもいわれている。ホタルにとって良い環境とは何かを意識してみると、自分たちにできることがあるかもしれない。

まず、ゴミや生活排水で川の水を汚さない工夫がいる。そして、なるべく自然のままの環境を残しておく必要がある。ホタルが孵化し、幼虫へ、そして成虫となり繁殖するまでのどの時期でも、安心して住める場所を壊してはいけない。田んぼの近くに住む場合は、窓の光がもれないようにすること、自然発生しているホタルの近くでは、懐中電灯やカメラのフラッシュを使わないことも考えられる。

昔と今の違いを知り、生き物が住みやすいきれいな川や自然について考え直すことが大切だ。同じ思いで、環境を守っていかうという人のネットワークが広がれば、僕たちとホタルが共に暮らせる日がやってくるはずだ。

* 高学年部門 *

優秀賞

千保川がきれいなのはなぜ？

高岡市立高岡西部小学校 六年

鍛治 咲彩子

「千保川はきれいだね。」

私は、おじいちゃんと散歩をしていた時に、千保川がとてもきれいなことに気付いた。おじいちゃんは、「昔はもっとよごれていたんだよ。工場の排水や家の排水を直接川に流していた時があったからね。」

と教えてくれた。

私はそれを聞いてびっくりした。今では工場や家の排水を直接川に流すなんて考えられないからだ。でも、今はどうしてきれいなのか気になった。調べてみると下水道と浄化槽を使って下水をきれいにしているそうだ。下水道できれいにしているのは授業で知っていたけれど、浄化槽は初めて知った。浄化槽のことをもっと知りたいと思ったので、高岡市内で開かれていた環境フェアに行って、浄化槽のしくみについて聞いてみることにした。

下水道と浄化槽は同じ仕組みをしていて、浄化槽は「小さな下水処理場」だと言われているそうだ。浄化槽の中に、空気が好きなび生物ときらいなび生物を分けて入れることで、より浄化作用が高まるそうだ。び生物を分けて入れているとは知らなかったもので、とてもおどろいた。浄化槽は下水道管の通っていない地域

で使われているそうだと聞いて、私はとてもうれしくなった。浄化槽のおかげで、下水道管が通っていない地域でも川の水がきれいになることに役立つと思ったからだ。

しかし、浄化槽にはメリットもあるが、弱点もある。例えば、台所で野菜くずや天ぷら油などを流すと、生物の働きが悪くなって、水をきれいにする力が弱くなる。そうなるにせよ、浄化槽できれいにするはずの水が、きれいにならなくなってしまふ。だから、私達も台所では野菜くずや天ぷら油などを流さないようにしたり、トイレでは水にとけないものや生物にえいきょうをあたる糞を流さないことが大切であると思う。

また環境フェアでは、浄化槽を点検する仕事の人も来ていた。び生物を浄化槽に入れるだけで汚い水がきれいになるわけではなく、浄化槽の機能を守るために

点検やかんしをしている仕事をしている方もいるから、きちんと感謝したいと思った。

千保川がきれいな理由と浄化槽のしくみや働きが分かった後、もう一度千保川を見てみた。やっぱりとてもきれいだった。この千保川の美しさを守っていけるように、排水にも気を付けて、川のゴミ拾いなどにも参加していこうと思う。家族や友達、近所の人も協力して、みんなですんでいけるようにがんばりたい。そして、浄化槽の役割についても広めていきたいと思った。

いつまでもきれいな千保川であるように。

* 高学年部門 *

優秀賞

漁業と河川の関係

高岡市立牧野小学校 五年

塩谷しおたに 凧海なみ

私の父は、明治時代から代々続く漁師です。深夜一時に、船で富山湾を出て、定置網という大きな網を仕掛けて、入った魚を水揚げし、種類ごとに分けて、新港へ持っていき、セリにかけて獲った魚を売ってくる仕事をしています。

「富山湾は、『天然のいけす』と呼ばれるほど、魚の種類が豊かで、四季に合わせて、新鮮で美味しい魚がたくさん獲れるのだよ。」と、父はいつも教えてくれました。

確かに、私の家では、アジやサバだけでなく、春はホタルイカやイワシ、夏はマダイや岩ガキ、秋はフクラギやカマス、冬はブリやカワハギなど、父が獲ってきた様々な魚がいつも食卓に並んでいて、家族みんなで、「お父さんのお魚おいしいね!」と、魚がいっぱいのご飯を楽しんでいます。海のない埼玉県からお嫁にきた母は、「こんな新鮮で美味しい魚をいつでも食べられるなんて、本当に幸せなことなのだよ。」といつもうれしそうに言います。

そこでなぜ、富山湾はこんなにたくさん種類の美味しい魚がとれるのか、他の地域の漁場と何が違うのか調べてみることにしました。

富山湾は、まず、三、〇〇〇m級の険しい立山連ばうに囲まれています。そこから雪解け水、雨水が森林を通って河川へ流れ込みます。森林で有機物を含んだ川の水、やがて海へ流れ込むと、プランクトンがともも多く、絶好の漁場となるのだそうです。漁業にとって、海と川には、深いつながりがあることを知り、「富山湾は特別な環境が生み出した素晴らしいところなんだ！この豊かな富山湾を守るためには、川も海も大切にしなければいけない。」と改めて感じました。

父が働いている漁業組合では、豊かな海を守るために地域ごとの海岸清掃や森林組合の方たちと協力して、河川上流の植じゅを手伝ったりしているそうです。植じゅをすることで、有機物をたくさん含む豊かな森林を増やしたり、大雨でも流れにくい土地を作り、災害や海への汚染物の流出を防止したりするそうです。

また、父は海のかん境や生態系を守ると言われています。

る、昆布の養殖も大学と協力して行っていると言っていました。

では、今の私にできることは何だろう、と考えてみました。水を大切に使うこと、海や川や山へ出かけたときは、必ずごみを持ち帰ること。清掃活動に積極的に参加すること。小さなことかもしれませんが、私たちが大きくなったときも変わらず豊かな富山湾がありますように、おいしい魚が食べられますように、できることを一つずつやっと思っています。

* 高学年部門 *

佳作

生きるために水がある

高岡市立戸出東部小学校 六年

長井^{ながい} 莉緒^{りお}

水は、ただの飲みものではなく、生活を支えている大事なものです。

また、水は人間の体にも関係しています。人間の体は成人の場合、約六〇%が水分です。その体の水分は、汗をかいて体温調節をしたり、老廃物を体のそとに出

したりするなどの役わりがあります。もしも水がなければ、このような体のしくみがうごかなくなってしまうのです。このように、私たちは水がないと生きていけないということが分かりました。

そして、水は生活にも役立っています。例えば、服の洗たく、シャワーやお風呂にも水が使われます。そして、家庭で一人一日使う水の量は、平均約二四〇リットルから、三二リットル使っています。このように、私たちは、一日を通してたくさんの水を使っているのです。

私の家では、皿洗いするとき水を出しっぱなしにしないように気をつけたりして、水を無駄にしないようにしています。こうしたことも、水の大切さを考える良いきっかけになると思います。

さらに、水は家庭だけでなく、農業や工場でも水は使われています。畑や田んぼでは、野菜を育てるため

に水を使っています。工場では、機械を冷やしたり、よごれを洗い流したりするためにも、水が必要です。こうした水の使い方が、私たちの食べ物や、日用品の生産に大きくかかわっているのです。

また、世界には、きれいな水を手に入れられない人がたくさんいます。アフリカでは、日本のように整備された水道がないので、子どもたちが遠い川や井戸まで歩いて水をくみにいかなないといけません。そして、その水を飲んでお腹をこわしたり、病気になって亡くなってしまう子どももいるということが分かります。日本では、じゃ口をひねれば当たり前のように出てくる水は、世界では、当たり前ではなく、日本はとてもめぐまれているなと思いました。

これから、地球温だん化で地球の温度が上がり、水が手に入りにくくなるのかもしれない。また、人口も増え続けているので、水を必要とする人も増えるか

もしれないのです。

だからこそ、一人ひとり、水を大切に使うことが大事だなと思いました。水を使わないときは水を止める、シャワーなどの時間を短くするなど。いろんな工夫を試みたいです。そして、今、私ができることを考えてみたいと思いました。

じゃ口をひねると、水が出るということは当たり前ではないということが分かりました。毎日、水を大切にしたいと思うし、今当たり前にある水のありがたさを忘れずに過ごしていきたいです。

◆募集要項

★応募対象

富山県内の小学生

★作文のテーマ

- ① イタイイタイ病について調べたこと、考えたこと
 - ② 清流を守る活動と人々
 - ③ 水と人間の暮らしの関わり
 - ④ 住んでいる地域の環境、自然について
 - ⑤ 生き物とのふれあい体験
 - ⑥ 山や川、海での体験
 - ⑦ 水や食の安全について
 - ⑧ 学校や学級で取り組んでいる環境問題
 - ⑨ 個人や地域で取り組んでいる環境問題
- ※ これ以外のテーマでも本コンクールの趣旨に沿うものであれば可とします。

(例えば、海洋汚染・地球温暖化・大気汚染・自然災害・健康被害など。)

★応募のきまり

- ① 応募作品の字数は以下のとおりです。

小学校1・2年生	400字詰原稿用紙	850字以内
小学校3・4年生	400字詰原稿用紙	1000字以内
小学校5・6年生	400字詰原稿用紙	1200字以内
- ② 一人1作品とします。
- ③ 原稿は縦書きとし、1行目にタイトル、2、3行目に学

校名、学年、氏名(ふりがな)を明記し、本文は4行目から書き始め、袋とじにしないで右肩をホッチキスでとめてください。

④ 応募作品は他のコンクール等へ応募していない未発表のものに限りません。

⑤ 応募者の情報及び応募作品を主催者の判断で発表することに関して、ご承諾いただきますようしくお願いいたします。

⑥ 応募作品は、郵送でお願いします。個人でも応募できます。学校や学級でまとめて応募する場合は、応募者名の一覧(学年、題名記載)と担任または担当者のお名前を書いたものを同封してください。

⑦ 原則応募作品の返却はいたしません。

★応募期間

応募期間は2025年7月1日～2025年10月20日とします

★賞の種類(応募する賞を明記する必要はありません。審査委員会適切に判断します。)

- A) 清流環境歴史賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- B) 清流環境体験賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- C) 清流環境科学賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- D) 清流環境奨励賞(がんばって応募していただいた学校や学級)

- ① 学校賞（各学年で在籍の7割以上が応募）
- ② 学級賞（在籍児童の7割以上が応募）

★表彰

- ① 小学校1・2年生の部（低学年）、3・4年生の部（中学年）、5・6年生の部（高学年）の歴史賞、体験賞、科学賞毎に、最優秀賞、優秀賞、佳作を选考します。
- ② 最優秀賞受賞者には表彰状と盾、副賞（図書カード5千円分）を贈ります。
- ③ 優秀賞受賞者には表彰状と盾、副賞（図書カード3千円分）を贈ります。
- ④ 佳作受賞者には表彰状と副賞（図書カード1千円分）を贈ります。
- ⑤ 清流環境奨励賞を受賞の学校には表彰状と盾、副賞（図書カード1万円分）、学級には表彰状と副賞（図書カード3千円分）を贈ります。
- ⑥ 清流環境奨励賞を受賞した学校・学級へイタイイタイ病に関係した方々（語り部等）を派遣して公害・環境教育のお役に立ちたいと思います。
- ⑦ 応募者全員に参加賞を贈ります。

★その他

- ① 作品は清流環境作文コンクール審査委員会で選考いたします。
- ② 選考結果は2026年1月上旬に発表する予定です。表彰式は2026年2月を予定しています。
- ③ 個人情報の取扱い

応募の際に提供いただく個人情報、以下に掲げる事項に必要な範囲で使用します。

- ・本コンクールの運営（外部審査員への提供を含む。）
- ・受賞作品の発表

・当財団が行う事業全般についての連絡

- ④ 応募者は、応募いただいた作文が受賞した場合に、当財団が主催、共催若しくは後援する事業、当財団のホームページ及び当財団が適当と考える場所（富山県立イタイイタイ病資料館、他地域の公害資料館等）において、当該応募者の氏名・所属・受賞作文・受賞した賞の種類を公表すること、及び当該受賞作文を他で公表する場合には、「一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会の表彰を受けた」旨付記し、当該応募作文が掲載された出版物、ホームページ写し等を当財団宛に提出をいただくことについて、応募をもってご承諾をいただくこととします。
- ⑤ 受賞作品はホームページからダウンロードできます。
- ⑥ 本コンクールの運営の内容、応募者の属性及び応募いただいた作文（氏名、所属等特定の応募者を識別することができる情報は含みません）について、大学、その他、当財団が適当と認めた機関における研究及び教育に使用されることがあります。研究・教育利用規約については、下記までお問い合わせください。
- ⑦ 本要項の記載内容はやむを得ず変更をする場合があります。変更をした場合は、当財団のホームページその他の場所において速やかに発表いたします。
- ⑧ 入賞作品は、文集掲載時に全体のバランスを考え、表記や表現を一部改める場合があります。

2025 年度
第 8 回 清流環境作文コンクール
受賞作品集

発行：一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイイタイ病対策協議会

清流会館 〒939-2723 富山市婦中町萩島 684
TEL 076-465-4811 FAX 076-465-4814

印刷：株式会社なかたに印刷

〒939-2741 富山市婦中町中名 1554-23
TEL 076-465-2341 (代) FAX 076-465-2340

発行日：2026 年 2 月 21 日

